

Oracle Discoverer 3i User Edition

インストレーションおよび管理ガイド

リリース 3.3

2000 年 7 月

部品番号 : J01248-01

ORACLE®

部品番号 : J01248-01

原本名 : Oracle Discoverer 3i Installation & Administration Guide

原本部品番号 : A66104-03

Copyright © 2000, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	v
------------	---

1 Discoverer 3iの概要

1.1 Discoverer の3層アーキテクチャ	1-1
1.1.1 第1層: クライアント	1-3
1.1.2 中間層: Discoverer サーバー	1-3
1.1.2.1 Discoverer サーバーのソフトウェア・コンポーネント	1-3
1.1.2.2 Discoverer サーバーのハードウェア	1-5
1.1.3 第3層: データベース	1-6
1.2 Discoverer の動作について	1-7
1.2.1 Discoverer のプロセス	1-7
1.2.2 データへのアクセス	1-7

2 Oracle Discoverer 3iのインストール

2.1 ハードウェア要件およびソフトウェア要件	2-1
2.1.1 ハードウェア要件	2-1
2.1.1.1 クライアント・ハードウェア要件	2-1
2.1.1.2 サーバー・ハードウェア要件	2-2
2.1.2 ソフトウェア要件	2-3
2.1.2.1 クライアント Web ブラウザ	2-3
2.1.2.2 HTTP サーバー	2-3
2.1.2.3 必要となるその他の環境情報	2-4
2.2 Discoverer サーバーの構成計画	2-4
2.3 Discoverer サーバー・ソフトウェアのインストール	2-7
2.3.1 複数のマシンへの Discoverer サーバーの分散インストール	2-7

2.3.1.1	Windows NT で作動する HTTP サーバーへの Discoverer 3i アプレットおよび Locator のインストール	2-7
2.3.1.2	マスター Discoverer サーバーへの Discoverer サーバー・コンポーネントのインストール	2-13
2.3.1.3	他のマシンへの Discoverer サーバー・コンポーネントのインストール	2-17
2.3.1.4	HTTP サーバーを実行する Solaris マシンへの Discoverer サーバー・ソフトウェアのインストール	2-21
2.3.1.5	Windows NT または Solaris を使用しない HTTP サーバーへの Discoverer ソフトウェアのインストール	2-27
2.3.2	Discoverer 3i のシングル・マシンへのインストール	2-32
2.3.3	カスタム・インストール	2-37
2.3.3.1	Solaris ユーザーのみ : identitydb.obj の Content Type の設定	2-41
2.3.4	インストールされたディレクトリ	2-41
2.3.5	実行可能ファイル	2-42
2.4	Discoverer Server コンポーネントの削除	2-42
2.5	サーバー・コンポーネントの登録	2-46
2.6	Discoverer Server の構成	2-46
2.6.1	Discoverer サーバー Preferences の編集	2-47
2.6.1.1	負荷均衡の例	2-47
2.6.1.2	Preferences ファイルの編集	2-48
2.6.1.3	tnsnames.ora ファイルの編集	2-51
2.7	アクセス権の付与	2-51
2.7.1	社内の HTML ページからのリンク設定	2-52
2.7.2	クライアント・マシンからの Discoverer 3i の起動	2-52
2.7.3	Java セキュリティについての注意	2-53
2.7.3.1	Microsoft Internet Explorer	2-53
2.7.3.2	Netscape Navigator と JInitiator	2-53

3 Discoverer 3i のメンテナンスおよびサポート

3.1	Discoverer サービスの使用	3-1
3.1.1	サービス・エラーの表示	3-4
3.2	登録された Discoverer サーバー・コンポーネントの表示	3-4
3.3	Discoverer を自動的に起動するための URL	3-7
3.3.1	URL の作成	3-7
3.4	エンド・ユーザー Preferences の編集	3-13
3.5	コンポーネントの登録および登録解除	3-21
3.5.1	Windows のプログラム・グループからの登録および登録解除	3-21

3.5.2	コマンドラインからの登録および登録解除	3-21
3.5.2.1	Preferences および Session の OAD への登録	3-21
3.5.2.2	OAD からのコンポーネントの登録解除	3-22
3.6	シャットダウン	3-23
3.6.1	個々のサーバーのシャットダウン	3-23
3.6.1.1	個々のサーバーの段階的シャットダウン	3-23
3.6.1.2	個々のサーバーの即時シャットダウン	3-24
3.6.2	Discoverer 3i システム全体のシャットダウン	3-25
3.6.2.1	Discoverer 3i システムの段階的シャットダウン	3-25
3.6.2.2	Discoverer 3i システムの即時シャットダウン	3-26
3.7	サーバーの追加および削除	3-26
3.7.1	サーバーの追加	3-26
3.7.2	サーバーの完全な削除	3-26
3.8	他のマシンでの Locator の実行方法	3-28
3.9	よくある質問	3-28

A Oracle Applications での Discoverer 3i の使用

A-1	Oracle Applications エンド・ユーザーのための URL 引数	A-1
A-2	Oracle Applications ユーザーのための NT レジストリ設定	A-2

用語集

索引

はじめに

このガイドでは、Discoverer 3i の Web での使用方法の概要を説明します。Discoverer 3i のインストール手順をステップ順に説明するとともに、サーバーをメンテナンスする際に役立つ情報を提供します。

対象読者

このガイドは、社内ネットワークのサーバーに対し、適切なアクセス権と、設定および構成を行う権限を持つ Web 管理者を対象としています。HTTP サーバーと分散オブジェクト・コンピューティングに関する実務知識、Web アプリケーションをインストールし実行する際のハードウェアとソフトウェアの要件に関する実務知識、および Discoverer Administration Edition の完全な理解が必要です。

Oracle データベースと SQL の実務知識も役に立ちますが、必須ではありません。

構成

このマニュアルは次の 3 つの章で構成されています。

- | | |
|-------|---|
| 第 1 章 | Discoverer 3i と、そのコンポーネントの概要を説明し、各コンポーネントの動作について概説します。 |
| 第 2 章 | Discoverer 3i のインストール時に必要なものをリストし、インストール手順をステップを追って説明します。 |
| 第 3 章 | Discoverer 3i のメンテナンス方法について説明し、一般的な質問に対する回答を提示します。 |

関連マニュアル

- 『Oracle Discoverer 3i User Edition ユーザーズ・ガイド』
- 『Oracle Discoverer 3.1 管理ガイド』

表記規則

このマニュアルで **Discoverer サーバー** は、Discoverer ネットワークの中間層にインストールされたすべてのコンポーネントを指します。中間層は複数のマシンでも構成されますが、クライアントの Web ブラウザおよびユーザーがアクセスするデータベースはこの層には含まれません。

HTTP サーバー とは、クライアントに Web へのアクセス機能を提供するマシンのことを指します。

マスター Discoverer サーバー とは、Discoverer Preferences がインストールされたあらゆるマシンのことを指します。

これらのコンポーネントを含むすべてのコンポーネントの詳細は、第 1 章を参照してください。

このマニュアルでは次の用語が使用されます。

用語	意味
Locator	OracleDiscovererLocator オブジェクト
Preferences	OracleDiscovererPreferences オブジェクト
Session	OracleDiscovererSession オブジェクト

このマニュアルでは次の規則も使用されます。

表記	意味
太字テキスト	文中の太字は、その文中で定義された用語、用語集で定義された用語、あるいはその両方で定義された用語を表します。
< >	このカッコは、ユーザーが指定する名前を囲むのに使用します。
[]	このカッコは、ユーザーが選択可能な（または選択しなくてもよい）オプション句を囲むのに使用します。

Discoverer 3i の概要

Oracle Discoverer 3i は、データ分析のためのビジネス・インテリジェンス・ツールです。ユーザーは、受賞実績のある Oracle Discoverer のユーザー・インタフェースを使用して、インターネット・ブラウザからデータベースのデータにアクセスし、データの分析ができます。

Discoverer 3i では、3 層アーキテクチャを採用しており、これによって管理およびメンテナンスの作業量を抑えながら、スケーラビリティを提供します。このアーキテクチャにより、データベースに格納されているワークブックに容易にアクセスできます。ワークブックは、ワークシートをまとめたものです。ワークシートは、業務担当者がデータベースへの問合せを行い、検索したデータを分析する、事前定義済みのデータと関連情報のセットです。

この章では、3 層アーキテクチャの概要を説明し、Oracle Discoverer 3i の各コンポーネントを定義し、さらに Discoverer がユーザーのデータ・アクセスを可能にする仕組みについて説明します。

1.1 Discoverer の 3 層アーキテクチャ

Discoverer は次の 3 つの層で構成されています。

- クライアント
- Discoverer サーバー
- データベース

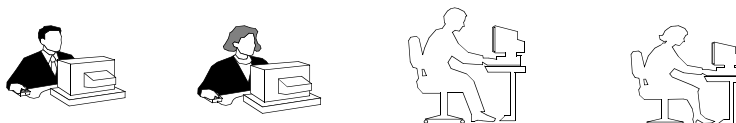
このアーキテクチャは Web 環境の分散化特性を活用しています。1 台のマシンに Discoverer の 3 つの層をすべてインストールすることも可能ですが、パフォーマンスを最大限に高めるため、各層を複数のマシンに分散することをお勧めします。

重要： Discoverer の End User Layer がデータベースにないと、クライアントのアクセス権および権限を設定できません。そのためには、まず Discoverer Administrator Edition をインストールする必要があります。

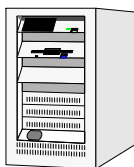
次の図は、このアーキテクチャを図示したものです。

第 1 層 : クライアント

Java 対応のブラウザをインストールしたコンピュータ



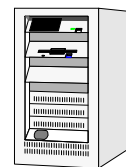
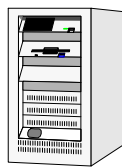
中間層 : Discoverer サーバー



HTTP サーバー

次のもので構成されます。

1. Discoverer アプレット・ファイル
2. Discoverer HTML ファイル
3. Locator (推奨位置)



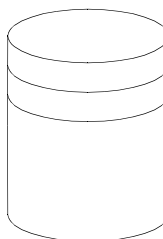
アプリケーション・サーバー

次のもので構成されます。

1. Session
2. Preferences

第 3 層 : データベース

End User Layer (EUL) →



← Oracle Discoverer 3.1
および 3i のワークブック

← データベース

1.1.1 第 1 層 : クライアント

第 1 層はクライアント、つまりユーザーのコンピュータのことです。クライアント・マシンにはいかなる設定作業もインストール作業も必要ありません。また、このマシンがデータベースにアクセスする必要もありません。このコンピュータの唯一の要件は、Microsoft Internet Explorer 4.01 や Netscape Navigator など Java 対応の Web ブラウザを、Oracle JInitiator と一緒に作動させることです。ユーザーは、Discoverer 管理者が提供する URL にアクセスすることによって Discoverer にログインして実行し、データ分析を行うことができます。

1.1.2 中間層 : Discoverer サーバー

第 2 層は Discoverer サーバーです。この部分は Discoverer 管理者がインストールし、メンテナンスします。このサーバーの基本的なコンポーネントは、Discoverer Java アプレットと HTML ページ、Locator、Session および Preferences の 4 つです。

Discoverer アプレットと HTML ページは、**HTTP サーバー**にインストールします。**Locator** も通常 HTTP サーバーにインストールします。その他のコンポーネントは 1 つ以上の**アプリケーション・サーバー**にインストールします。Discoverer サーバーは、1 つのサーバー・マシンにインストールすることも、複数のマシンに分散してインストールすることもできます。

また、VisiBroker の 2 つの CORBA (Common Object Request Broker Architecture) コンポーネント、すなわち Object Activation Daemon (OAD) および SmartAgent コンポーネントもインストールします。これらの CORBA コンポーネントは、ユーザーが Discoverer セッションの開始を要求したときに、新規コンポーネントのアクティブ化およびロケーション・サービスの提供を行います。

1.1.2.1 Discoverer サーバーのソフトウェア・コンポーネント

Discoverer のアーキテクチャは、次の 4 つの部分 (コンポーネント) から構成されています。

- Discoverer アプレットと HTML ページ
- Session コンポーネント
- Locator コンポーネント
- Preferences コンポーネント

1.1.2.1.1 Discoverer アプレットと HTML ページ Discoverer Java アプレットは、データベース内のデータの分析に必要なユーザー・インタフェースおよび機能を提供します。HTML ページは、ユーザーが Discoverer サーバーの URL の位置にログインする際に参照する Web ページです。

注意： Discoverer アプレットは、ユーザーが初めてログインするときに、初期化されてユーザーのマシンにキャッシュされます。それ以降にユーザーが再びログインした場合は、Discoverer アプレットはローカル・キャッシュから実行されるため、ダウンロードする必要がありません。このアプレットは Java 対応のブラウザで作動します。

1.1.2.1.2 Session コンポーネント Session コンポーネントは、クライアントとデータベースとの間のリンクを提供します。開始されたセッションは、Discoverer のクライアント・インスタンスとなります。Session コンポーネントには、アプリケーション・ロジックのすべてが含まれており、データベースへの接続、ワークブックのオープンなど、Discoverer の全動作を実行します。

Session コンポーネントがインストールされているマシンでは、複数のクライアントのセッションを同時に実行できます。複数のアプリケーション・サーバーに Session コンポーネントをインストールし、各マシンで複数のセッションを同時に実行させると、全体的なパフォーマンスを向上させることができます。Session コンポーネントを複数のサーバーに分散することで、可用性も向上します。あるサーバーが作動していないときは、他のサーバーでセッション要求が処理されます。

Session コンポーネントは、サーバーが Windows NT マシンであれば、Discoverer サーバー構成内のどのサーバー（アプリケーション・サーバーまたは HTTP サーバー）上でも作動します。

1.1.2.1.3 Locator コンポーネント Locator の役割は、クライアントからのセッション要求を受信し、使用可能な次のアプリケーション・サーバーを検索し、新規セッションを開始して、このセッションの参照情報をクライアントに戻すことです。クライアントは、いったんこの参照情報を受信すると、セッションと直接通信します。Locator は次の要求を待ちます。Locator コンポーネントは HTTP サーバーにインストールします。Discoverer サーバーに対しては、ネットワーク上に Locator コンポーネントが 1 つ必要です。

この構造では、いったんセッションが開始されると、HTTP サーバーはクライアントとセッションの通信には関与しなくなります。この構造の大きな利点は、セッションが開始された後、HTTP サーバーを通過する通信量に新たに追加されることがないため、セッションの数が増えても HTTP サーバーのパフォーマンスが影響を受けないことです。HTTP サーバーまたは Locator に障害が発生しても、クライアントはアプリケーション・サーバーと直接通信しているため、ユーザー・セッションが中断されないという利点もあります。

Locator コンポーネントは、要求されたセッションを、どのアプリケーション・サーバーで開始させるかを判断するので、使用可能なアプリケーション・サーバー間の負荷を分散させる上でも役立ちます。最大限のパフォーマンスが得られるような、Locator のセッションの割当て方法を指定することもできます。

1.1.2.1.4 Preferences コンポーネント Preferences コンポーネントは、すべてのエンド・ユーザーの作業環境設定を、1つの場所で行えるようにします。Discoverer サーバーは、格納された作業環境設定に従って、動作の特定の部分を決めます。Oracle Discoverer サーバーには、1つの Preferences コンポーネントをインストールします。

様々なコンポーネントが様々なマシンで実行されるような分散環境では、インストールする Preferences コンポーネントを1つのみにすることが重要です。Preferences コンポーネントは、コンポーネントが実行される場所を問わず、全コンポーネントに対して一貫性のある作業環境設定を行います。Preferences コンポーネントは、作業環境の格納および読取りを Windows レジストリとの間で行います。Preferences コンポーネントは、Windows NT で動作するサーバーにインストールする必要があります。

1.1.2.2 Discoverer サーバーのハードウェア

4つの Discoverer コンポーネントのそれぞれをサーバーにインストールする必要があります。Discoverer のアーキテクチャを構成するサーバーには、次の3つがあります。

- HTTP サーバー
- アプリケーション・サーバー
- マスター Discoverer サーバー

1.1.2.2.1 HTTP サーバー このマシンでは、HTTP サーバー・ソフトウェアを実行します。Discoverer サーバーに指定する HTTP サーバーは1つです。Discoverer サーバーを1台のマシンにインストールする場合、そのマシンは HTTP サーバーであることが必要です。

1.1.2.2.2 アプリケーション・サーバー Discoverer サーバーのソフトウェア・コンポーネントを複数のマシンに分散させる場合は、アプリケーション・サーバーと Session コンポーネントを同一マシンにインストールします。多数のアプリケーション・サーバーを Discoverer 環境に加えることが可能です。たとえば、Session コンポーネントを3つのマシンにインストールすると、これらのマシンがそれぞれアプリケーション・サーバーとなり、各マシンが複数のセッションを開始できるようになります。

1つのマシンに全コンポーネントをインストールした場合、そのマシンはアプリケーション・サーバーと HTTP サーバーの両方の役割を兼ねるマシンになります。

1.1.2.2.3 マスター Discoverer サーバー Discoverer サーバー環境に複数のアプリケーション・サーバーがある場合は、1つをマスター Discoverer サーバーとして指定する必要があります。このサーバーには Preferences と Session のコンポーネントを含めます。その他のサーバーは、Session コンポーネントのみのホストとなります。

1.1.3 第 3 層 : データベース

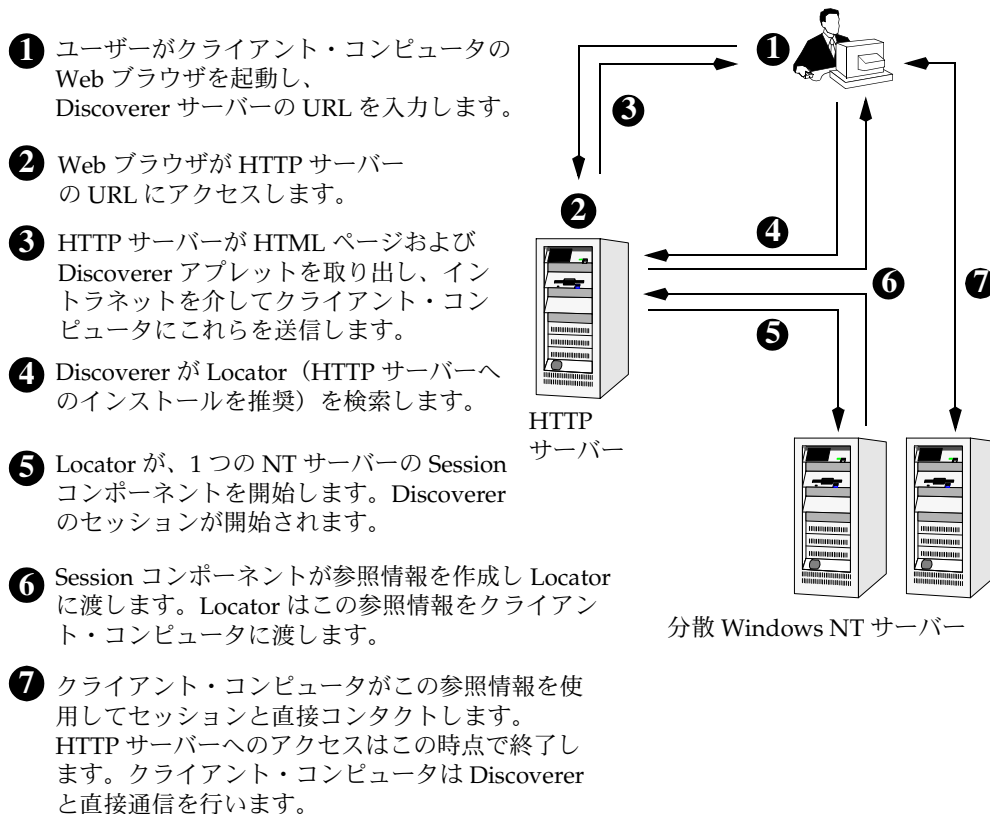
Discoverer の第 3 層はデータベースです。データベースには、ユーザーが必要とする情報、分かりやすいデータ・ビューを提供する End User Layer (EUL)、そしてユーザーがデータの表示および分析のために利用できる Discoverer ワークブックが含まれています。EUL は、Discoverer Administrator Edition によって作成されメンテナンスされます。

注意： ユーザーが Discoverer を使用してデータを分析する前に、データベースには Discoverer 3.1 EUL が含まれている必要があります。EUL は、Oracle Discoverer 3.1.36 for Windows95/98/NT 以降の Administration Edition を使用して作成または更新します。現在 Discoverer 3.0.8 を使用している場合は、Discoverer 3.1.36 以降にアップグレードしてください。Discoverer 3.1.25 を使用している場合は、Discoverer 3.1.36 以降の最新のパッチをインストールしてください。Discoverer 3.1.36 以降のバージョンは 2000 年対応のため、使用している EUL およびソフトウェアは西暦 2000 年になっても正しく動作します。

1.2 Discoverer の動作について

この項では、Discoverer の動作について、ユーザーがクライアント・コンピュータのブラウザを起動してから、データにアクセスできるようになるまでを説明します。次の図は基本的なプロセスを図示したものです。

1.2.1 Discoverer のプロセス



1.2.2 データへのアクセス

クライアントがセッションに直接接続されると、セッションはデータベース内のユーザーが指定した Discoverer ワークブックを検索します。セッションは SQL*Net を使用して、Discoverer EUL およびデータベースと通信します。

Oracle Discoverer 3i のインストール

この章では、Oracle Discoverer 3i のインストール時に必要となる情報を提供します。この章では、次の内容について説明します。

- ハードウェア要件およびソフトウェア要件
- インストールに先立って必要となる情報
- Discoverer サーバーの構成計画
- Discoverer サーバー・コンポーネントのインストール手順
- Discoverer サーバー・コンポーネントの登録手順

2.1 ハードウェア要件およびソフトウェア要件

この項では、Oracle Discoverer 3i のインストールおよび実行に必要な、最小限のハードウェアおよびソフトウェアについて説明します。個々の企業における実際のハードウェア要件およびソフトウェア要件は、Discoverer サーバー・セッションを実行する社内ネットワーク内のマシン数、および予想される同時セッション数によって異なります。

2.1.1 ハードウェア要件

この項の推奨事項は、Discoverer サーバーを分散モードでインストールする場合を前提としています。プロセッサ速度が速いほど、また、メモリー容量が大きいほど、パフォーマンスは向上します。

2.1.1.1 クライアント・ハードウェア要件

Windows 95、Windows 98 または Windows NT 4.0 を実行するマシンの要件は次のとおりです。

- Pentium 90 MHz および RAM 32 MB 以上
- 15 MB のハード・ディスク空き領域 (20 MB を推奨)

Solaris 2.5 または 2.6 を実行するマシンの要件は次のとおりです。

- Sun SPARC または Intel x86 マイクロプロセッサ
- 48 MB の RAM
- Java Runtime Environment (JRE) 1.1.7.28o 用の 6MB のハード・ディスク空き領域
- VisiBroker ユーティリティ用の 5MB のハード・ディスク空き領域
- インストール用の 45MB のハード・ディスク一時空き領域
- Discoverer 3i クライアント用の 12 MB のハード・ディスク空き領域

2.1.1.2 サーバー・ハードウェア要件

Discoverer サーバー・セッションを実行するサーバーの要件は次のとおりです。

- Pentium 133MHz デュアル・プロセッサ（または同等のもの）

2.1.1.2.1 サーバー・メモリー要件 Discoverer サーバーの各コンポーネントに必要な RAM を次の表に示します。

表 2-1 コンポーネント別サーバー・メモリー要件

Discoverer コンポーネント	必要な RAM
Locator	5.5 MB（および JRE 用として 4.5 MB）
Session	アクティブな同時セッション 1 つにつき最低 3.8 MB（実際の要件はワークブックのサイズおよび複雑度によって異なります。）
Preferences	0.5MB

2.1.2 ソフトウェア要件

この環境におけるソフトウェア要件は次のとおりです。

- Oracle Discoverer 3i
- HTTP サーバー・ソフトウェア（インストール済み）
- ODBC を使用する場合は Oracle データベース（インストール済み）または他のデータベース
- Oracle Discoverer Administrator Edition バージョン 3.1.36 以降および対応する End User Layer（EUL）
- Web ブラウザ・ソフトウェア（各クライアント・コンピュータにインストール済み）

2.1.2.1 クライアント Web ブラウザ

Discoverer 3i をサポートする Web ブラウザは次のとおりです。

表 2-2 プラットフォーム別サポート・ブラウザ

オペレーティング・システム	IE 4.01**	IE 5.0**	Netscape Navigator	
			3.0*	4.0X*
Windows NT	○	○	○	○
Windows 98	○	○	○	○
Windows 95	○	○	○	○
Solaris/SPARC			○	○

* これらのブラウザは、ネイティブ JVM ではなく、HTTP コンポーネントとともに HTTP サーバーにインストールされている Oracle JInitiator を使用する必要があります。

** 4.72.3110.8 より古いバージョンの Microsoft Internet Explorer を使用している場合は、これより新しいバージョンにアップグレードしてください（推奨）。バージョン番号を確認するには、Internet Explorer を起動し、「ヘルプ」メニューから「バージョン情報」を選択します。

2.1.2.2 HTTP サーバー

サポートされている HTTP サーバーは次のとおりです。

- Oracle Application Server
- Netscape Enterprise Server
- Apache Server
- MS Internet Information Server

HTTP サーバーは、実行ファイル（.exe）の MIME タイプを処理できる必要があります。

2.1.2.3 必要となるその他の環境情報

Discoverer 3i をインストールするには次の情報も必要です。

- セッションを実行する各サーバーの IP アドレスまたはマシン名
- リモート・クライアントがアクセス可能な Web サーバーのディレクトリ
- データベース接続情報、すなわち、インストール後 Discoverer サーバーを構成するために必要なデータベース SID、ユーザー名、プロトコルおよびポート番号（または、要求されるすべてのデータベースへのアクセスに必要な tnsnames.ora などのファイル）

注意： これらの設定操作に慣れていない場合は、Oracle データベース管理者に問い合わせてください。

2.2 Discoverer サーバーの構成計画

インストールできるコンポーネント、サーバー、および必要なサーバーのタイプを次の表に示します。

表 2-3 Discoverer サーバー・コンポーネントの実行に必要なサーバー

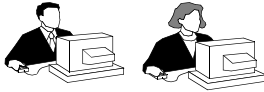
Discoverer サーバー名	インストール可能コンポーネント	サーバーのタイプ
HTTP サーバー	Locator	Windows 4.0 NT サーバーまたは Solaris
HTTP サーバー	Discoverer 3i アプレット（クライアント）	あらゆる HTTP サーバー（NT、Solaris など）
マスター Discoverer サーバー	Preferences	Windows NT 4.0 サーバー
マスター Discoverer サーバー	Session	Windows NT 4.0 サーバー
その他の Discoverer サーバー	Session	Windows NT 4.0 サーバー

Locator、Session および Preferences のコンポーネントはすべて、同一のサブネットにインストールする必要があります。Discoverer 3i の複数のインスタンスをサブネットにインストールする場合、たとえば、会計部門に 1 つのインスタンス、エンジニアリング部門に別のインスタンスをインストールする場合、各インスタンスに対して Locator コンポーネントと Preferences コンポーネントをインストールし、インストール時には各インスタンスに必ず一意の名前を付けるようにします。

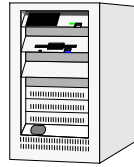
Discoverer サーバーの典型的な構成を次に図示します。

Discoverer サーバーの典型的な構成

シングル・マシン・インストール



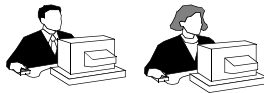
クライアント・
コンピュータ



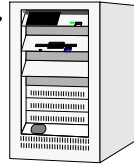
Discoverer サーバー

1. Windows NT 4.0 が稼動するマシンであると同時に HTTP サーバーである必要があります。
2. Discoverer サーバー・コンポーネントをすべて含めます。
3. Session はこのマシンで実行されます。

典型的な 2 台のマシンへのインストール

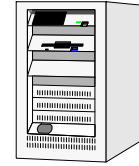


クライアント・
コンピュータ



HTTP サーバー

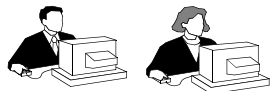
1. どの HTTP サーバーでも可能。
2. Locator をインストールします（推奨）。
3. Session はこのマシンでは実行されません。
4. SmartAgent をインストールします（推奨）。



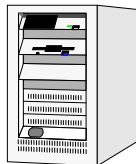
アプリケーション・サーバー

1. HTTP サーバー以外。
2. Windows NT 4.0 サーバーにする必要があります。
3. Preferences、Session および Object Activation Daemon をインストールします。
4. SmartAgent をインストールします（推奨）。
5. Session はこのマシンで実行されます。

一般的な分散インストール

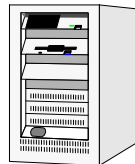


クライアント・
コンピュータ



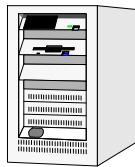
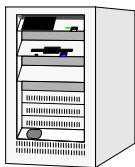
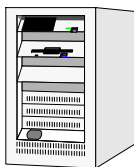
HTTP サーバー

1. どの HTTP サーバーでも可能。
2. Locator をインストールします (推奨)。
3. Session はこのマシンでは実行されません。
4. SmartAgent をインストールします (推奨)。



マスター Discoverer サーバー

1. HTTP サーバー以外。
2. Windows NT 4.0 サーバーにする必要があります。
3. Preferences、Session および Object Activation Daemon をインストールします。
4. SmartAgent をインストールします (推奨)。
5. Session はこのマシンで実行できます。
6. このマシンの tnsnames.ora ファイルは、他の Discoverer サーバーと同じものにする必要があります。



他の Discoverer サーバー

1. HTTP サーバー以外。Preferences はインストールしません。
2. 各マシンに Session および Object Activation Daemon をインストールします。
3. 各マシンに SmartAgent をインストールします (推奨)。
4. Session はこれらのマシンで実行されます。
5. 各マシンの tnsnames.ora ファイルは同一であることが必要です。

注意： Net*Client ソフトウェアは、ユーザーがアクセスする Oracle データベースへのアクセスが可能になるよう構成してください。これらのデータベースには、Discoverer EUL、ビジネス・エリアおよびワークブックをインストールします。tnsnames.ora ファイルを使用せずに、これらのデータベースへのアクセスを可能にするには、SQLNET.Ora ファイルで指定された、Oracle Name Server を使用します。

Discoverer サーバーを分散モードでインストールする場合は、いずれか 1 つのマシンをマスター Discoverer サーバーに指定し、Discoverer Preferences および Session コンポーネントのホストとします。Discoverer 3i セッションを実行する各マシンには、Session コンポーネントを必ずインストールしてください。

アクティブなセッションにはそれぞれ 3.8 ～ 18 MB の RAM が必要です。各マシンがサポート可能な同時セッションの数を見積ることができます。マシン・リソースを同時セッションに割り当てる際に役立つよう、マシン間の負荷均衡を設定手順の一環として行います。負荷均衡の詳細は 2-47 ページの 2.6.1.1 項「[負荷均衡の例](#)」を参照してください。

2.3 Discoverer サーバー・ソフトウェアのインストール

Discoverer サーバーは、1 台のコンピュータにインストールすることも、複数のサーバーにインストールすることもできます。Discoverer サーバーを幅広く使用するためには、分散インストールをお勧めします。一般的には、シングル・マシン・インストールは、デモンストレーションを実行する場合や Discoverer サーバーを評価する場合または小グループのユーザー向けにセットアップする場合に使用します。

Discoverer サーバーを複数のマシンに分散インストールする方法を次に説明します。1 つのマシンにインストールする方法の詳細は、[2.3.2 項「Discoverer 3i のシングル・マシンへのインストール」](#)を参照してください。

2.3.1 複数のマシンへの Discoverer サーバーの分散インストール

複数のマシンへのインストールには次の 3 つのステップを含みます。

ステップ 1: Discoverer 3i アプレットおよび Discoverer Locator を HTTP サーバーにインストールします。

ステップ 2: Discoverer Preferences コンポーネントおよび Discoverer Session コンポーネントをマスター Discoverer サーバーにインストールします。

ステップ 3: セッションに使用する各サーバーに Discoverer Session コンポーネントをインストールします。

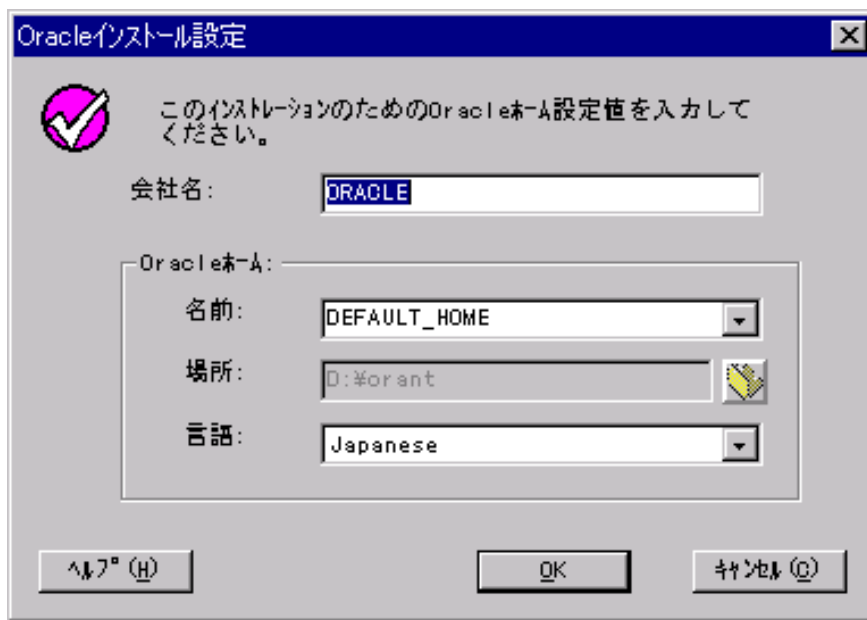
HTTP サーバーはどのようなプラットフォームでも作動します。

- HTTP サーバーを Windows NT で作動させる場合は、この項の手順に従って作業を続けます。
- HTTP サーバーを Solaris で作動させる場合は、2-21 ページの [2.3.1.4 項「HTTP サーバーを実行する Solaris マシンへの Discoverer サーバー・ソフトウェアのインストール」](#)を参照します。
- HTTP サーバーを作動させる際に Solaris も Windows NT も使用しない場合は、HTML ファイルおよびダウンロード・ファイルを HTTP サーバーにコピーし、Locator を Windows NT マシンにインストールします。このプロセスの詳細は 2-27 ページの [2.3.1.5 項「Windows NT または Solaris を使用しない HTTP サーバーへの Discoverer ソフトウェアのインストール」](#)で説明します。

2.3.1.1 Windows NT で作動する HTTP サーバーへの Discoverer 3i アプレットおよび Locator のインストール

1. Discoverer 3i の CD-ROM を挿入します。Oracle Installer が起動されます。Installer が起動されない場合は、CD-ROM のルート・ディレクトリにある Setup.exe をダブルクリックしてください。

「Oracle インストール設定」ダイアログ・ボックスが開きます。

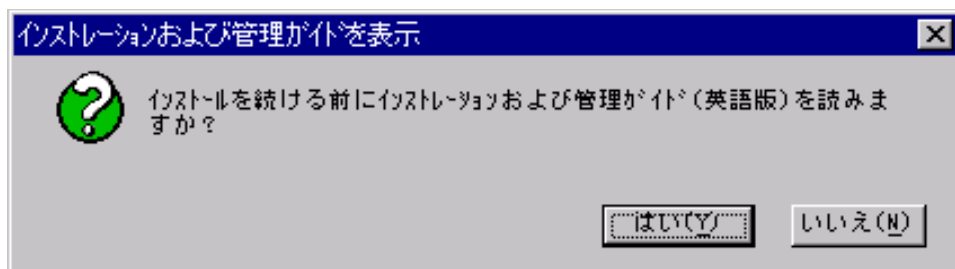


2. 次の情報を入力するか選択して、「OK」をクリックします。

- 「会社名」： 会社名
- 「名前」： Discoverer Server 3.3 の [DEFAULT_HOME] を選択します。
- 「場所」： [DEFAULT_HOME] のパスを選択します。以前に DEFAULT_HOME に製品をインストールしていた場合は、このディレクトリを変更できません。
- 「言語」： このサーバーで使用する言語

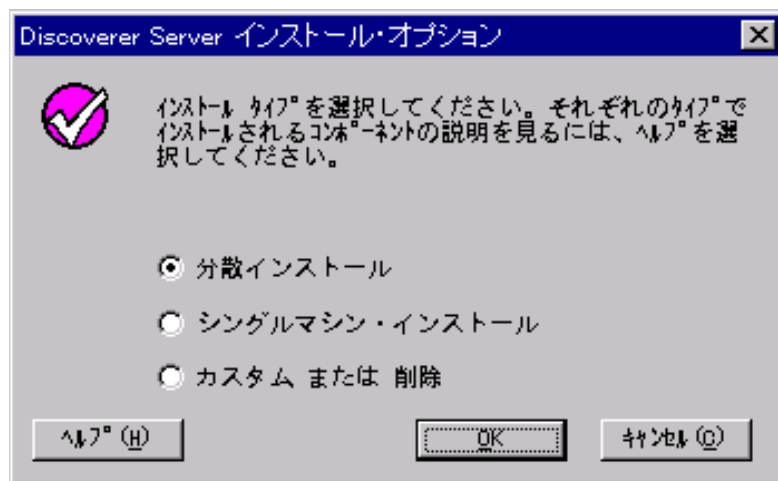
注意： 言語の設定によって、Discoverer コンポーネントにインストールされる翻訳済ファイルが判断されるわけではありません。常に、Discoverer 固有の翻訳がすべてインストールされます。言語の設定では、NT システムの NLS_LANG 変数も設定されます。

「インストールおよび管理ガイドを表示」ダイアログ・ボックスが表示されます。



3. 「はい」をクリックすると英語版の『Discoverer 3i User Edition インストールおよび管理ガイド』を表示します。使用しているコンピュータのデフォルトの Web ブラウザが開き、インストール・ガイドの目次が表示されます。

Oracle Installer に戻ると、「Discoverer Server インストール・オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。



4. 「分散インストール」を選択し、「OK」をクリックします。

「Discoverer Server インストール・オプション」ダイアログ・ボックスが開きます。



5. HTTP サーバーに Discoverer 3i アプレットおよび Locator をインストールするので、「HTTP サーバー・コンポーネント」を選択し、「OK」をクリックします。

「ディレクトリ選択」ダイアログ・ボックスが開きます。



6. Discoverer 3i の HTTP ファイルをインストールする場所を、ディレクトリの名前を入力するか場所をブラウズして指定します。これらのファイルには、Discoverer 3i の Java アプレットおよび HTML ページが含まれ、ユーザーが Discoverer 3i を起動したときに、クライアント・マシンにダウンロードされます。これらのファイルは、リモート・ユーザーもアクセス可能な HTTP サーバー上のディレクトリにインストールする必要があります。

別名を作成する手間を省くために、Discoverer 3i ファイルは、HTTP サーバーのルート・ディレクトリにインストールすることをお勧めします。

注意： Discoverer 3i ファイルを、HTTP サーバーのルート・ディレクトリもしくはルート直下のディレクトリにインストールしない場合、仮想ディレクトリの別名または URL の接頭辞を作成し、前述のディレクトリにマップする必要があります。詳細は、HTTP サーバーのマニュアルを参照してください。

「OK」をクリックします。「Discoverer Server インスタンス名」ダイアログ・ボックスが開きます。



7. Discoverer のインスタンスに対し、一意の名前を入力します。インスタンス名は、Discoverer コンポーネント (Locator、Preference および Session) を識別する名前文字列に付加されています。たとえば、前述のサンプルの場合、Discoverer Preferences を登録するバッチ・ファイルには、inventoryOracleDiscovererPreferences33 という名前が設定されます。このような仕組みにより、ネットワーク上の Discoverer サーバーの各インスタンスは、必ずそれぞれ専用のコンポーネントを参照するようになっています。

注意： 後で Discoverer Server コンポーネントを他のマシンにインストールする場合にこのインスタンスの名前が必要になるため、その名前を書き留めておいてください。

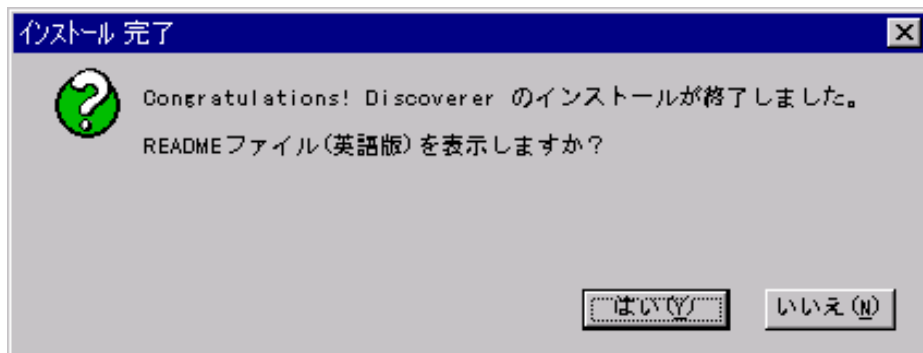
「OK」をクリックします。別の「ディレクトリ選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。



8. HTTP サーバー上の、Discoverer Locator コンポーネントのインストール先のパスを入力します。「OK」をクリックします。

注意： 同じマシンに、Preferences や Sessions コンポーネントなど、他の Discoverer Server コンポーネントがすでにインストールされている場合は、このダイアログは表示されません。

インストールが開始されます。HTTP サーバーへのインストールの場合は、Oracle Discoverer 3i Java アプレット、HTML ページおよび Discoverer Locator がインストールされます。インストールが完了すると、「インストール完了」メッセージが表示されます。



9. 「はい」をクリックし、README ファイルを読みます。このファイルには、サーバーおよびユーザーに関する、Oracle Discoverer 3i の最新情報が記載されています。

10. README ファイルを読み終わったら、閉じてください。

Discoverer 3i の全コンポーネントが、サーバーにインストールおよび登録されました。インストールでは、OracleDiscoverer3i と呼ばれる NT サービスが作成されます。NT サービスにより、Locator コンポーネントおよび CORBA サービスが起動時に開始されます。このサービスの停止と再起動を Windows の「スタート」メニューから行うには、「設定」→「コントロール パネル」→「サービス」を選択します。

注意： Locator は、後でインストールする Preferences コンポーネントと Session コンポーネントも検出します。

これでマスター Discoverer サーバーにソフトウェアをインストールする準備ができました。

2.3.1.2 マスター Discoverer サーバーへの Discoverer サーバー・コンポーネントのインストール

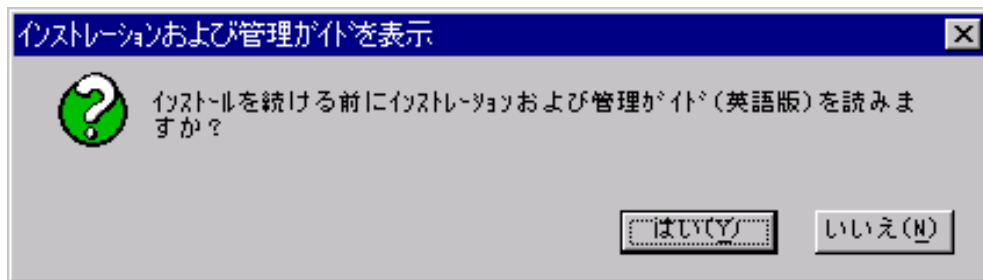
マスター Discoverer サーバーとしては、Windows NT 4.0 サーバーを使用する必要があります。

1. マスター Discoverer サーバーに指定したマシンに、Discoverer 3i CD-ROM を挿入します。

「Oracle インストール設定」ダイアログ・ボックスが開きます。

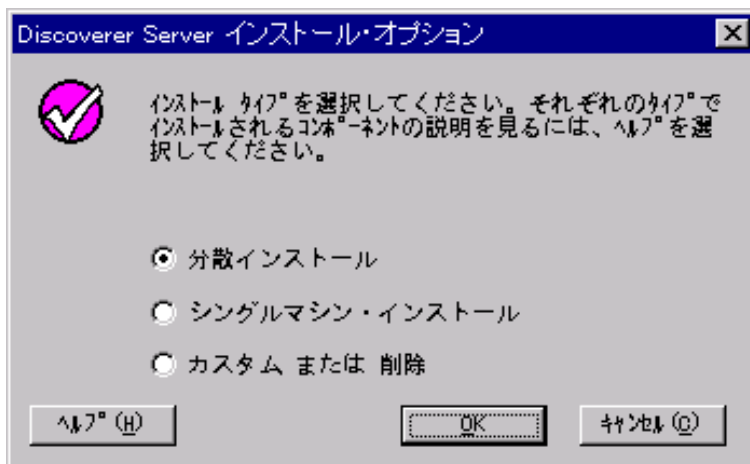


必ず [DEFAULT_HOME] ディレクトリを選択します。「OK」をクリックします。
「インストールおよび管理ガイドを表示」ダイアログ・ボックスが表示されます。



2. 「はい」をクリックすると英語版の『Discoverer 3i User Edition インストールおよび管理ガイド』を表示します。使用しているコンピュータのデフォルトの Web ブラウザが開き、インストール・ガイドの目次が表示されます。

Oracle Installer に戻ると、「Discoverer Server インストール・オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。



3. 分散インストールを継続するので、「分散インストール」を選択し、「OK」をクリックします。

「Discover Server インストール・オプション」ダイアログ・ボックスが開きます。



4. 「マスター Discoverer Server」をクリックし、「OK」をクリックします。

「ディレクトリ選択」ダイアログ・ボックスが開きます。DEFAULT_HOME ディレクトリの下にある、デフォルトの Oracle ホーム・ディレクトリが表示されています。



5. Preference および Session コンポーネントのインストール先のパスを入力します。「OK」をクリックします。

「Discoverer Server インスタンス名」ダイアログ・ボックスが開きます。



6. HTTP サーバーのインストールで入力したインスタンス名を入力します。「OK」をクリックします。

重要： Discoverer サーバー・コンポーネントを実行するすべてのマシンへのインストールでは、同一のインスタンス名を設定することが重要です。

インストールが開始されます。マスター Discoverer サーバーのインストールでは、Oracle Discoverer の 2 つのコンポーネント (Discoverer Preferences および Discoverer Session) のインストールおよび登録が行われます。インストールが完了すると、「インストール完了」メッセージが表示されます。



7. README ファイルは、HTTP サーバーへのインストール時にすでに目を通していているので、「いいえ」をクリックします。

8. Installer を終了します。

インストールでは、OracleDiscoverer3i と呼ばれる NT サービスが作成されます。この NT サービスにより、Locator と CORBA サービスが起動時に開始されます。このサービスの停止と再起動を Windows の「スタート」メニューから行うには、「設定」→「コントロールパネル」→「サービス」を選択します。

Preference および Session コンポーネントを Locator に登録する必要はありません。登録は OracleDiscoverer3i サービスによって自動的に行われます。何らかの理由によりコンポーネントが Locator に正しく登録されない場合は、[2.5 項「サーバー・コンポーネントの登録」](#)を参照してください。

マスター Discoverer サーバーへのインストールでは、2つのプログラム・グループ（Oracle Discoverer Server 3i および Oracle Discoverer Server 3i Setup）も作成されます。

HTTP サーバーとマスター Discoverer サーバーを使用して構成する場合は、これでインストールは完了です。他のマシンにもインストールする場合は、次の項に進みます。

2.3.1.3 他のマシンへの Discoverer サーバー・コンポーネントのインストール

他のマシンへのインストールでは、Discoverer Session コンポーネントを各マシンにインストールします。他のマシンは、Windows NT 4.0 を使用している必要があります。より多くのユーザーをサポートするために、Discoverer Session コンポーネントを他の各マシンにインストールします。このようにしてシステムを拡張します。

注意： これらのマシンは、HTTP サーバーおよびマスター Discoverer サーバーとして使用したマシンではありません。

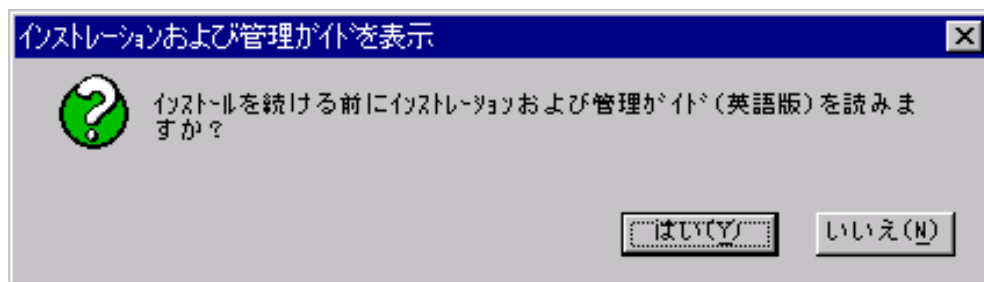
追加される各マシンでは、それぞれ複数のセッションを実行できます。したがって、セッションに使用するマシンの総数は、ユーザーが必要とする同時セッション数、利用可能なメモリーの量、ハードウェアのスピードなどによって異なります。IP アドレスのリストを Pref.txt ファイルに追加します。詳細は、[2.6.1 項「Discoverer サーバー Preferences の編集」](#)を参照してください。

1. セッションを実行するために使用するマシンに、Discoverer 3i CD-ROM を挿入します。
「Oracle インストール設定」ダイアログ・ボックスが開きます。



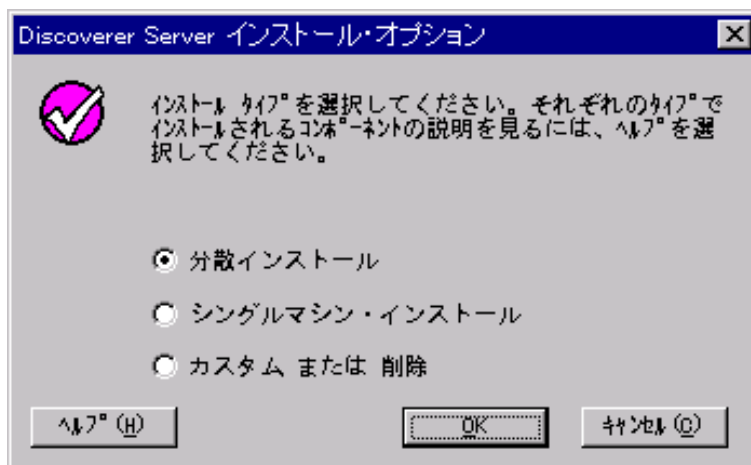
必ず [DEFAULT_HOME] ディレクトリを選択します。

「OK」をクリックします。「インストールおよび管理ガイドを表示」ダイアログ・ボックスが表示されます。



2. 「はい」をクリックすると英語版の『Discoverer 3i User Edition インストールおよび管理ガイド』を表示します。使用しているコンピュータのデフォルトの Web ブラウザが開き、インストール・ガイドの目次が表示されます。

Oracle Installer に戻ると、「Discoverer Server インストール・オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 分散インストールを継続するので、「分散インストール」を選択し、「OK」をクリックします。

「Discover Server インストール・オプション」ダイアログ・ボックスが開きます。



4. 「その他の Discoverer Server」を選択し、「OK」をクリックします。

「ディレクトリ選択」ダイアログ・ボックスが開きます。DEFAULT_HOME ディレクトリの下にある、デフォルトの Oracle Home ディレクトリが表示されています。



5. 「OK」をクリックします。

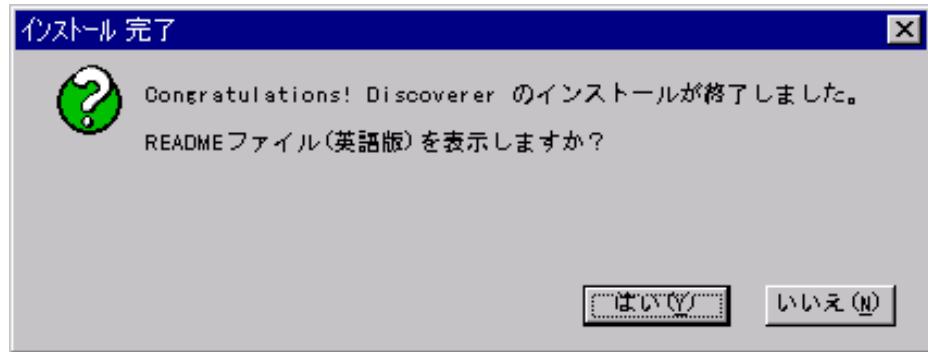
「Discoverer Server インスタンス名」ダイアログ・ボックスが開きます。



6. HTTP サーバーで入力したインスタンス名を入力します。「OK」をクリックします。

注意： セッションが実行されるすべてのマシンに、同一のインスタンス名を設定することが重要です。

インストールが開始されます。その他の Discoverer サーバーのインストールでは、Discoverer Session コンポーネントのインストールおよび登録が行われます。インストールが完了すると、「インストール完了」メッセージが表示されます。



7. README ファイルは、HTTP サーバーへのインストール時にすでに目を通しているの
で、「いいえ」をクリックします。
8. Installer を終了します。
9. Discoverer 3i のセッションに使用するすべてのマシンで、前述のステップ 1 ～ 8 の作業
を繰り返します。

インストールでは、OracleDiscoverer3i と呼ばれる NT サービスが作成されます。この NT サービスにより、Locator と CORBA サービスが起動時に開始されます。このサービスの停止と再起動を Windows の「スタート」メニューから行うには、「設定」→「コントロールパネル」→「サービス」を選択します。

Session コンポーネントを Locator に登録する必要はありません。登録は OracleDiscoverer3i サービスによって自動的に行われます。何らかの理由によりコンポーネントが Locator に正しく登録されない場合は、[2.5 項「サーバー・コンポーネントの登録」](#)を参照してください。

これで分散インストールが完了しました。サーバーにインストールされたディレクトリのリストは、2-41 ページの [2.3.4 項「インストールされたディレクトリ」](#)を参照してください。

2.3.1.4 HTTP サーバーを実行する Solaris マシンへの Discoverer サーバー・ソフトウェアのインストール

Discoverer HTTP サーバー・ソフトウェアは、Solaris で作動するマシンにインストールできます。Solaris で作動する HTTP サーバーにインストールするには、次の 4 つのステップを行います。

- Java Runtime Environment (JRE) 1.1.6 以降がまだインストールされていない場合は、インストールします。
- VisiBroker for Java 3.4.0.0 をインストールします。

- Discoverer 3i User Edition および Locator コンポーネントをインストールします。
- Locator コンポーネントをアクティブにします。

このソフトウェアのインストールは、適切な権限（一般的には 'root'）でログインして行います。

VisiBroker ユーティリティは、実行する際に JRE が必要な Java アプリケーションです。VisiBroker ユーティリティを実行する場合は、Locator コンポーネントをアクティブ化し、さらに他のマシンの Discoverer 3i コンポーネントとの通信をサポートする必要があります。

使用可能なセッションに Discoverer 3i アプレットを接続させるには、Locator コンポーネントを起動しておく必要があります。Locator コンポーネントのアクティブ化は、システムの初期化時に自動的に行うか、またはユーザー・アカウントから行うことができます。

Solaris システムへのインストール手順では次のディレクトリ名と変数を使用しますが、これらは、ユーザーのディレクトリ名と適切な値に置き換えることができます。

- `<temp>`: インストール時に選択する一時ディレクトリ
- `<jre>`: JRE 1.1.6 をインストールするディレクトリ
- `<dis_root>`: Discoverer 3i User Edition をインストールするディレクトリ
- `<name>`: Discoverer 3i のコンポーネントであることを示すインスタンス名

2.3.1.4.1 JRE 1.1.6.04 のインストール

VisiBroker ユーティリティには Java Runtime Environment (JRE) が必要です。Oracle Discoverer 3i には JRE バージョン 1.1.6.04 が組み込まれています。このバージョンをインストールしても、現在サーバー上にある JRE または JDK の他のバージョンとの競合が発生することはありません。

1. Solaris マシン上で、Discoverer 3i CD-ROM をマウントし、Discoverer 3i CD-ROM 上の /Solaris ディレクトリを開きます。
2. /Solaris/jre116Sparc.tar を `<temp>` ディレクトリにコピーします。
3. 次のコマンドを使用して、ファイル jre116Sparc.tar を `<temp>` ディレクトリに取り込みます。

```
tar xvf <temp>/jre116Sparc.tar
```

これにより、次の 3 つのファイルが抽出されます。

Solaris_JRE_1.1.6_04_sparc.bin

sparc_jdk_patches.tar.Z

README

4. JRE 1.1.6.04 をインストールする前に、README ファイルを読み、使用している OS のバージョンでは、sparc_jdk_patches.tar.Z ファイルにあるパッチを使用する必要があるか確かめます。

- 5. 次のファイルを実行します。Solaris_JRE_1.1.6_04_sparc.bin
JRE ファイルが現行ディレクトリのサブディレクトリにインストールされます。
- 6. JRE ディレクトリ・ツリーをインストールするディレクトリ（以下 <jre>）を開きます。
- 7. 次のように入力します。

```
/bin/sh <jre>/Solaris_JRE_1.1.6_04_sparc.bin
```


次のディレクトリが新たに作成されます。

```
<jre>/Solaris_JRE_1.1.6_04/
```


<jre> は JRE ディレクトリ・ツリーをインストールするディレクトリの名前です。
これで JRE 1.1.6.04 のインストールが完了しました。

2.3.1.4.2 VisiBroker 3.3.4.0 for Java のインストール

- 1. /usr/local/ の下に /vbroker ディレクトリを作成します。
- 2. Discoverer 3i CD-ROM から、/Solaris/vbroker34.tar を /usr/local/vbroker にコピーします。
- 3. 次のコマンドを使用して、vbroker34.tar をディレクトリ /usr/local/vbroker に取り込みます。

```
tar xvf <temp>/vbroker34.tar
```
- 4. 次の環境変数を設定します。

表 2-4 Solaris 環境変数

環境変数	値
VBROKER_ADM	/usr/local/vbroker/adm
VBROKER_JAVAVM	<jre>/Solaris_JRE_1.1.6_04/bin/jre
PATH（既存の値に追加）	/usr/local/vbroker/bin

これで VisiBroker 3.3.4.0 for Java のインストールは完了しました。

2.3.1.4.3 Discoverer 3i User Edition のインストール

Discoverer 3i User Edition は、HTML ページ、Java アプレット・ファイルおよびイメージ・ファイルで構成されています。HTML ページのうち 3 ページは、Discoverer 3i の全コンポーネントで使用する、一意のインスタンス名を組み込むように修正する必要があります。

インスタンス名は識別子の一種で、Discoverer 3i で使用される様々なコンポーネントのデフォルト名に付加されます。インスタンス名が付加されることにより、各コンポーネントは

一意の名前を持つようになります。コンポーネントに一意の名前が付けられていなければ、複数の Discoverer 3i をネットワークの同一のサブネットにインストールしたとき、互いに干渉し合う可能性があります。また、特定の Discoverer 3i のすべてのコンポーネントに同一のインスタンス名が先頭に付けられていない場合、これらのコンポーネントは互いに通信できません。したがって、インストール作業を進めるにあたり、使用するインスタンス名を知っておく必要があります。

Solaris で作動する HTTP サーバーに Discoverer 3i User Edition をインストールする場合、次の 2 つの方法があります。

- Discoverer 3i User Edition の TAR ファイルを取り出し、手動で 3 つの HTML ページにインスタンス名を追加して変更します。
- まず Discoverer 3i User Edition を Windows NT サーバーにインストールします。Oracle Installer が 3 つの HTML ページにインスタンス名を自動的に付けた後、Solaris マシンにこれらのファイルを FTP 転送します。

方法 1: TAR アーカイブからインストールし、インスタンス名を手動で追加する

この項の説明は、Discoverer 3i User Edition ファイル用の <dis_root> ディレクトリを HTTP サーバーに作成済みであり、かつ <dis_root> とそのサブディレクトリにアクセスできるよう HTTP サーバーが構成されていることを前提としています。

1. Discoverer 3i CD-ROM から、ファイル /Solaris/3iUserMLE.tar を <dis_root> ディレクトリにコピーします。

2. 作業ディレクトリを <dis_root> に変更し、次のコマンドを実行します。

```
tar xvf /usr/local/3iUserMLE.tar
```

3. テキスト・エディタで次のファイルを開きます。

```
<dis_root>/Discwb33/html/<language>/ms_ie/disco_frame.htm
```

```
<dis_root>/Discwb33/html/<language>/netscape/disco_frame.htm
```

```
<dis_root>/Discwb33/html/<language>/netscape/start_sol.htm
```

<language> には、使用する言語、すなわち english、japanese、french などと入力します。

4. これらのファイルの中には、適切な Session および Locator に接続するために Discoverer 3i が使用する様々なアプレット・タグを定義する項があります。OracleDiscovererSession3.3 および OracleDiscovererLocator3.3 の先頭にそれぞれインスタンス名をつけます。次のようになります。

```
<iname>OracleDiscovererSession3.3、<iname>OracleDiscovererLocator3.3
```

これらの名前はファイル内に 1 回のみ現れます。たとえば、ファイル内の元のコードは次のようになります。

```
document.writeln('<param name="Session" value="OracleDiscovererSession3.3">')
document.writeln('<param name="Locator" value="OracleDiscovererLocator3.3">')
```


インスタンス名が Payables である場合、次のようにファイルを編集します。

```
document.writeln('<param name="Session" value="PayablesOracleDiscovererSession3.3">')
document.writeln('<param name="Locator" value="PayablesOracleDiscovererLocator3.3">')
```

5. 変更を保存し、ファイルを閉じます。

これで手作業でインスタンス名を追加する編集作業が完了しました。インストールを続行するには、26 ページの「[Locator コンポーネントのアクティブ化](#)」を参照してください。

方法 2: Windows NT ホストにインストールし、FTP を使用してファイルを Solaris サーバーに転送する

Discoverer 3i User Edition のインストール時に、この方法を使用する場合は、次の条件を満たす必要があります。

- FTP を使用して Windows NT マシンから Solaris マシンにファイルを転送するためのネットワーク・アクセスが可能になっていること。
 - ロングファイル名をサポートし、ファイル名の大文字および小文字の保持が可能で、かつ Windows NT マシンと Solaris マシン間で、ASCII ファイルおよびバイナリ・ファイルの転送ができる FTP ソフトウェアを使用すること。
1. Windows NT マシン上で、一時ディレクトリ <nt_temp> を作成します。後で、この一時ディレクトリに Discoverer 3i User Edition ファイルをインストールします。
 2. Windows NT マシンに CD-ROM を挿入し、この CD-ROM の Oracle Installer を起動します。

注意： Oracle Installer は、必ずこの CD-ROM のものを使用してください。以前インストールした Oracle Installer は使用しないでください。

3. CD-ROM がドライブ <cd_rom> にある場合は、次のコマンドを実行します。

```
<cd_rom>:¥setup.exe
```

4. 次のデフォルトの「Oracle インストール設定」を受け入れます。
ORACLE_HOME
Name: DEFAULT_HOME
Location: C:¥orant
Language: < 使用言語 >
5. Discoverer Server インストール・オプションの入力を要求されたら、「分散インストール」を選択します。
6. 分散インストール・オプションの入力を要求されたら、「HTTP サーバー・コンポーネント」を選択します。

- 7. Discoverer 3i のインストール先の入力を要求されたら、<nt_temp> の名前を入力します。
- 8. インスタンス名の入力を要求されたら、Discoverer 3i のインスタンス名、たとえば Payables や Engineering 等を入力します。
これでインストール・プロセスが終了します。
- 9. FTP ソフトウェアを使用して、Windows NT マシンの <nt_temp>¥Discwb33 にあるファイルとディレクトリ全体を、Solaris マシンの <dis_root>/Discwb33 ディレクトリに転送します。
- 10. Windows NT マシン上で、CD-ROM から Oracle Installer を起動し、次に示したグループ全体を削除します。
 - Oracle Discoverer User Edition for Web
 - VisiBrokerProducts 3.3.1.0d
 - Java Runtime Environment 1.1.6.04
- 11. Solaris マシン上で次のコマンドを使用して、Discoverer CD-ROM から /Solaris/start_locator を、Solaris マシン上の <dis_root>/Discwb33/applet ディレクトリにコピーします。

```
cp <CD-ROM drive>/Solaris/start_locator <dis_root>/Discwb33/applet
```

Windows NT マシンにインストールし、ファイルを Solaris マシンに FTP 転送する作業がこれで完了しました。Locator コンポーネントのアクティブ化が可能です。

2.3.1.4.4 Locator コンポーネントのアクティブ化

Locator コンポーネントをアクティブ化する前に、Discoverer サーバー・マシン上で OAD および CORBA サービスを実行しておく必要があります。また、File Descriptors という Solaris OS パラメータを、“unlimited” に設定しておく必要があります。このパラメータの設定方法は、Solaris OS のマニュアルを参照してください。

- 1. ディレクトリ <dis_root>/Discwb33/applet を開きます。
- 2. start_locator ファイルで、インスタンス名 <iname> を Locator 変数の前に追加するための編集を行います。

表 2-5 Locator 変数

現在の設定値	新規の設定値
OracleDiscovererPreference3.3	<iname>OracleDiscovererPreference3.3
OracleDiscovererLocator3.3	<iname>OracleDiscovererLocator3.3

たとえば、ファイル内の元のコードは次のようになります。

```
vbj oracle.disco.locator.Locator -preference
OracleDiscovererPreferences3.3 -locator
OracleDiscovererLocator3.3
```

インスタンス名が Payables である場合、次のようにファイルを編集します。

```
vbj oracle.disco.locator.Locator -preference
PayablesOracleDiscovererPreferences3.3 -locator
PayablesOracleDiscovererLocator3.3
```

3. 次のコマンドを入力して、VisiBroker SmartAgent を起動します。

```
osagent -p 14000
```

Locator コンポーネントをアクティブ化する前に、VisiBroker SmartAgent を実行しておく必要があります。SmartAgent は、どのディレクトリからも起動できます。VisiBroker for Java 3.4.0.0 のファイルを以前にインストールしたとき、osagent のパスを環境変換 PATH に追加したためです。

4. start_locator のモードを実行可能にするため、次のコマンドで変更します。

```
chmod 744 start_locator
```

5. 次のコマンドで Locator コンポーネントをアクティブ化します。

```
start_locator
```

Discoverer 3i User Edition、Locator コンポーネントおよびサポート・ファイル群を、Solaris マシンへインストールする作業がこれで完了しました。<nt_temp> ディレクトリ内のテンプレート・ファイルは、この時点で削除可能です。

注意： Discoverer 3i を機能させるには、Locator コンポーネントを実行しておく必要があります。システムの再起動など、Locator プロセスを停止させるすべてのリカバリおよびメンテナンス・スクリプトは、Locator プロセスを考慮に入れて変更しておく必要があります。

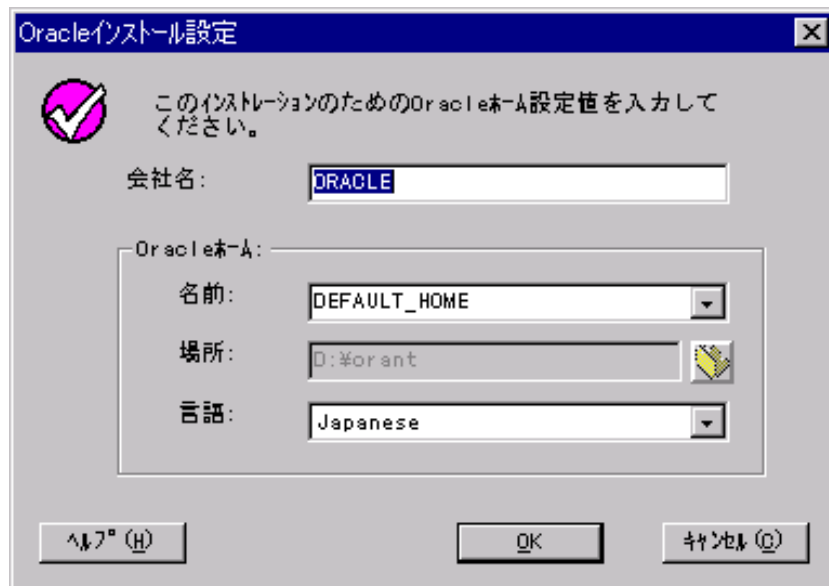
2.3.1.5 Windows NT または Solaris を使用しない HTTP サーバーへの Discoverer ソフトウェアのインストール

この構成では、Locator コンポーネントは Windows NT マシンで実行されますが、そのマシンは Discoverer サーバーとしても使用できます。まず Windows NT マシンに HTTP サーバーをインストールしてから、HTML ファイルおよびダウンロードされるファイルを NT 以外のマシンにコピー（または FTP 転送）します。ファイルが NT 以外の HTTP サーバー上に配置された後で、Discoverer セッションを実行する Windows NT マシンに Locator をインストールします。

重要：Locator コンポーネントを HTTP サーバー・マシン以外で実行するように Discoverer をインストールした場合には、Locator コンポーネントが再起動されるたびに、locator.ior ファイルを HTTP サーバーの Discwb33/applet ディレクトリにコピーする必要があります。

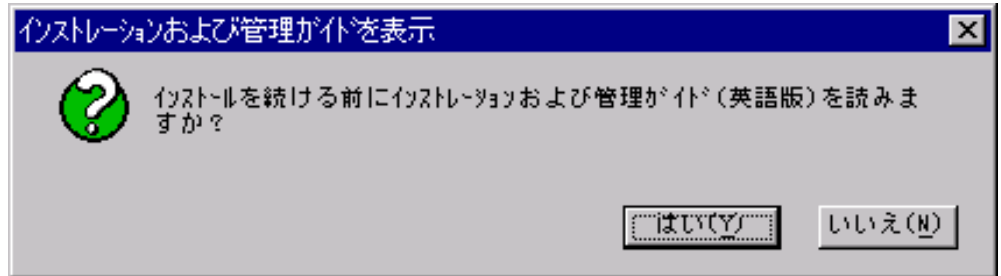
1. HTML ファイルおよびダウンロードされるファイルの HTTP サーバーへのインストール方法について、2.3.1.1 項「[Windows NT で作動する HTTP サーバーへの Discoverer 3i アプレットおよび Locator のインストール](#)」を参照します。
2. HTML ファイルおよびダウンロードされるファイルを、NT マシンから HTTP サーバーとして使用する NT ではないマシンにコピー（または FTP 転送）します。
3. Discoverer 3i CD-ROM を、Locator コンポーネントのホストとなる Windows NT マシンに挿入します。

「Oracle インストール設定」ダイアログ・ボックスが開きます。



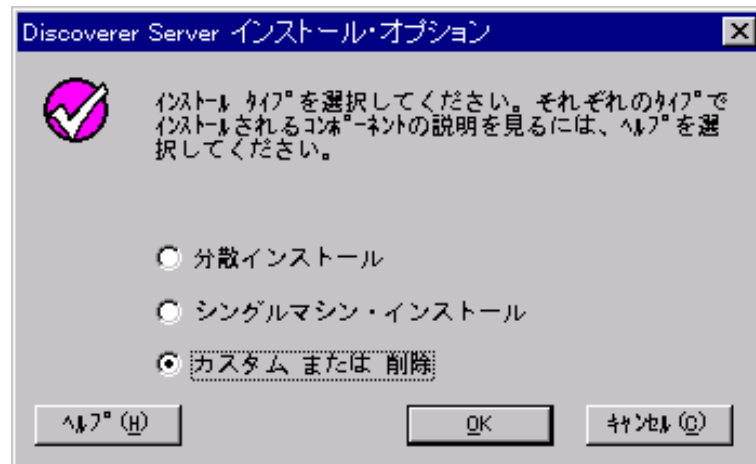
4. 次の情報を入力するか選択して、「OK」をクリックします。
 - 「会社名」： 会社名
 - 「名前」： Discoverer Server 3.3 の [DEFAULT_HOME] を選択します。
 - 「場所」： [DEFAULT_HOME] のパスを選択します。以前に DEFAULT_HOME に製品をインストールしていた場合は、このディレクトリを変更できません。
 - 「言語」： このサーバーで使用する言語

「OK」をクリックします。「インストレーションおよび管理ガイドを表示」ダイアログ・ボックスが表示されます。

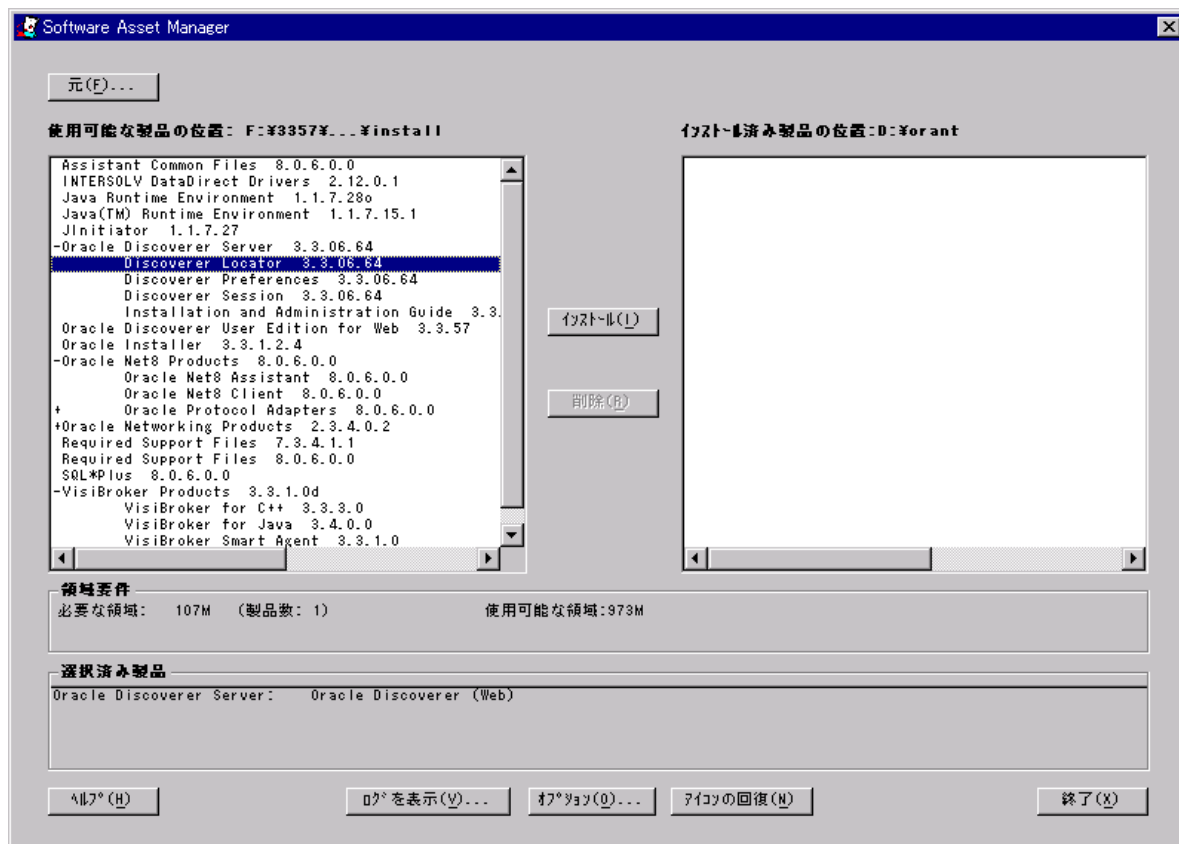


5. 「はい」をクリックすると英語版の『Discoverer 3i User Edition インストレーションおよび管理ガイド』を表示します。使用しているコンピュータのデフォルトの Web ブラウザが開き、インストレーション・ガイドの目次が表示されます。

Oracle Installer に戻ると、「Discoverer Server インストール・オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。



6. 「カスタムまたは削除」を選択し、「OK」をクリックします。
「Software Asset Manager」ダイアログ・ボックスが開きます。



7. Oracle Discoverer Server の項目をダブルクリックして展開します。
8. 「Discoverer Locator」をクリックし、「インストール」ボタンをクリックします。

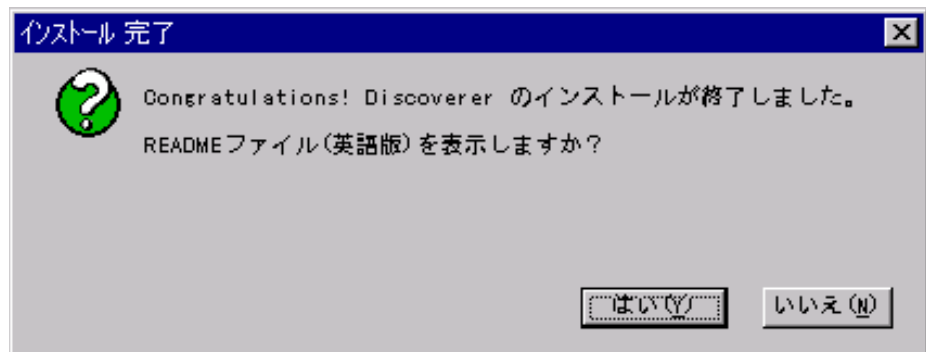
「Discoverer Server インスタンス名」ダイアログ・ボックスが開きます。



9. HTTP サーバーで入力したインスタンス名を入力します。「OK」をクリックします。

注意： セッションが実行されるすべてのマシンに、同一のインスタンス名を設定することが重要です。

インストールが開始されます。インストールが完了すると、「インストール完了」メッセージが表示されます。



10. Installer が「Software Asset Manager」に戻ります。追加のコンポーネントをインストールできます。追加がなければ、「終了」をクリックします。

インストールでは、OracleDiscoverer3i と呼ばれる NT サービスが作成されます。この NT サービスにより、Locator と CORBA サービスが起動時に開始されます。このサービスの停止と再起動を Windows の「スタート」メニューから行うには、「設定」→「コントロールパネル」→「サービス」を選択します。

Preference および Session コンポーネントを Locator に登録する必要はありません。登録は OracleDiscoverer3i サービスによって自動的に行われます。何らかの理由によりコンポーネントが Locator に正しく登録されない場合は、[2.5 項「サーバー・コンポーネントの登録」](#)を参照してください。

これでマスター Discoverer サーバーおよびその他の Discoverer サーバーに Discoverer ソフトウェアをインストールする準備ができました。詳細は、[2.3.1.2 項「マスター Discoverer サーバーへの Discoverer サーバー・コンポーネントのインストール」](#) および [2.3.1.3 項「他のマシンへの Discoverer サーバー・コンポーネントのインストール」](#)を参照してください。

2.3.1.5.1 Solaris ユーザーのみ : identitydb.obj の Content Type の設定

ネットワークに Solaris ユーザーが存在し、かつクライアントで Netscape Navigator または Communicator が使用されている場合は、Java Plug-in の使用をお勧めします。Java Plug-in は、セキュリティ・メカニズムとして identitydb.obj というファイルを使用しています。このバイナリ・ファイルは、クライアント・マシンすべてにダウンロードされている必要があります。

Netscape で、このファイルをテキスト・ファイルではなくバイナリ・ファイルとしてダウンロードするためには、Web 管理者が、HTTP サーバーの拡張子リストに、ファイル拡張子 .obj を追加する必要があります。Content Type application/octet-stream に拡張子 obj を追加します。デフォルトでは、exe および bin などが設定されています。詳細は、HTTP サーバーのマニュアルを参照してください。

identitydb.obj ファイルは、<root or virtual path>/Discwb33/util にあります。詳細は、[2.7.3.2 項「Netscape Navigator と JInitiator」](#)を参照してください。

2.3.2 Discoverer 3i のシングル・マシンへのインストール

シングル・マシンへのインストールは、HTTP サーバーとなっている Windows NT 4.0 マシンに対して行う必要があります。

1. Discoverer 3i の CD-ROM を挿入します。Oracle Installer が起動されます。Installer が起動されない場合は、CD-ROM のルート・ディレクトリにある Setup.exe をダブルクリックしてください。

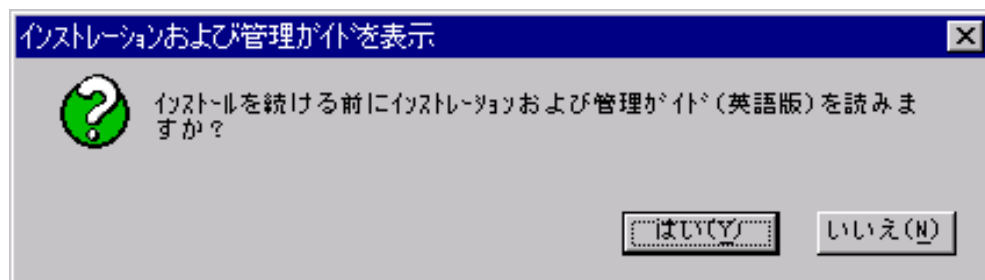
「Oracle インストール設定」ダイアログ・ボックスが開きます。



2. 次の情報を入力するか選択して、「OK」をクリックします。

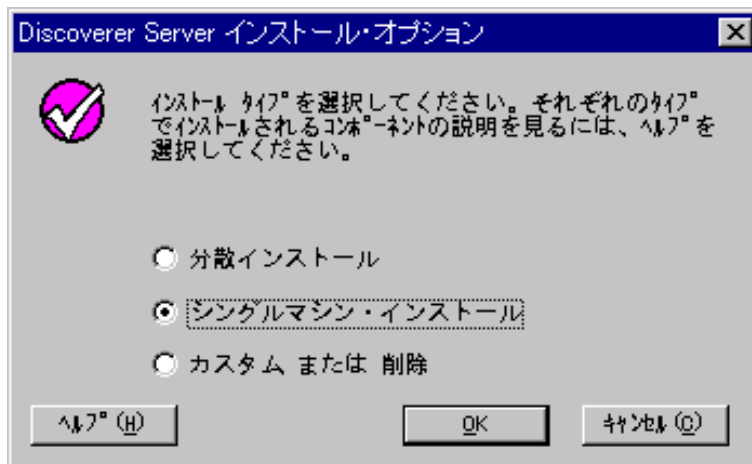
- 「会社名」： 会社名
- 「名前」： Discoverer 3i の [DEFAULT_HOME] を選択します。
- 「場所」： [DEFAULT_HOME] のパスを選択します。以前に DEFAULT_HOME に製品をインストールしていた場合は、このディレクトリを変更できません。
- 「言語」： このサーバーで使用する言語

「OK」をクリックします。「インストールおよび管理ガイドを表示」ダイアログ・ボックスが表示されます。



3. 「はい」をクリックすると英語版の『Discoverer 3i User Edition インストレーションおよび管理ガイド』を表示します。使用しているコンピュータのデフォルトの Web ブラウザが開き、インストレーション・ガイドの目次が表示されます。

Oracle Installer に戻ると、「Discoverer Server インストール・オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。



4. 「シングルマシン・インストール」をクリックし、「OK」をクリックします。
「ディレクトリ選択」ダイアログ・ボックスが開きます。



5. Discoverer 3i の HTTP ファイルをインストールする場所を、ディレクトリの名前を入力するか場所をブラウザして指定します。これらのファイルには、Discoverer 3i の Java アプレットおよび HTML ページが含まれ、ユーザーが Discoverer 3i を起動したときに、クライアント・マシンにダウンロードされます。これらのファイルは、リモート・ユーザーもアクセス可能な HTTP サーバー上のディレクトリにインストールする必要があります。

別名を作成する手間を省くために、Discoverer 3i ファイルは、HTTP サーバーのルート・ディレクトリにインストールすることをお勧めします。

注意： Discoverer 3i ファイルを、HTTP サーバーのルート・ディレクトリもしくはルート直下のディレクトリにもインストールしない場合は、仮想ディレクトリの別名または URL の接頭辞を作成し、前述のディレクトリにマップする必要があります。詳細は、HTTP サーバーのマニュアルを参照してください。

「OK」をクリックします。「Discoverer Server インスタンス名」ダイアログ・ボックスが開きます。



- この Discoverer のインスタンスに対し、一意の名前を入力します。インスタンス名は、Discoverer コンポーネント (Locator、Preference および Session) を識別する名前文字列に付加されています。たとえば、前述のサンプルの場合、Discoverer Preferences を登録するバッチ・ファイルには、inventoryOracleDiscovererPreferences33 という名前が設定されます。このような仕組みにより、マシン上またはネットワーク上の Discoverer サーバーの各インスタンスは、必ずそれぞれ専用のコンポーネントを参照するようになっています。

「ディレクトリ選択」ダイアログ・ボックスが開きます。



7. Discoverer Locator をインストールするディレクトリ名を入力または参照して指定します。
8. 「OK」をクリックします。

インストールが開始されます。必要なファイルがすべてマシンにインストールされます。インストールが完了すると、「インストール完了」メッセージが表示されます。



9. 「はい」をクリックし、README ファイルを読みます。このファイルには、サーバーおよびユーザーについての、Oracle Discoverer 3i の最新情報が記載されています。
10. README ファイルを読んだら、閉じてください。

Discoverer 3i の全コンポーネントが、サーバーにインストールおよび登録されました。インストールでは、OracleDiscoverer3i と呼ばれる NT サービスが作成されます。この NT サービスにより、Locator と CORBA サービスが起動時に開始されます。このサービスの停止と再起動を Windows の「スタート」メニューから行うには、「設定」→「コントロール パネル」→「サービス」を選択します。

Preference および Session コンポーネントを Locator に登録する必要はありません。登録は OracleDiscoverer3i サービスによって自動的に行われます。何らかの理由によりコンポーネ

ントが Locator に正しく登録されない場合は、[2.5 項「サーバー・コンポーネントの登録」](#)を参照してください。

これでインストールが完了しました。サーバーにインストールされたディレクトリのリストは、2-41 ページの [2.3.4 項「インストールされたディレクトリ」](#)を参照してください。

2.3.3 カスタム・インストール

カスタム・インストール・オプションを使用すると、様々なコンポーネントを、複数のサーバーの別々の場所にインストールできます。ただし、次に示すように、分散インストールのときと同じサーバー要件が適用されます。

- HTTP サーバーには、Windows NT 4.0 サーバーまたは UNIX サーバーが使用できます。ただし、マスター Discoverer Server およびその他の追加サーバーには、Windows NT 4.0 サーバーを使用する必要があります。HTTP サーバーが Windows NT 4.0 サーバーではない場合は、Windows NT 4.0 サーバーに Discoverer Server をインストールし、インストールされたファイルを FTP で UNIX サーバーに転送する必要があります。
 - Discoverer 3i アプレットおよび HTML ファイルは、HTTP サーバーと同じマシンにインストールする必要があります。Discoverer Locator は、Windows NT マシンまたは Solaris マシンにインストールする必要があります。
 - サブネット上では、Discoverer 3i の各インスタンスに対して、Preferences コンポーネントと Locator コンポーネントはそれぞれ 1 つしかインストールできません。Discoverer Sessions コンポーネントは、複数インストールできます。
 - セッションを実行する全マシンに、Discoverer Session コンポーネントをインストールする必要があります。
1. Discoverer 3i の CD-ROM を挿入します。Oracle Installer が起動されます。Installer が起動されない場合は、CD-ROM のルート・ディレクトリにある Setup.exe をダブルクリックしてください。

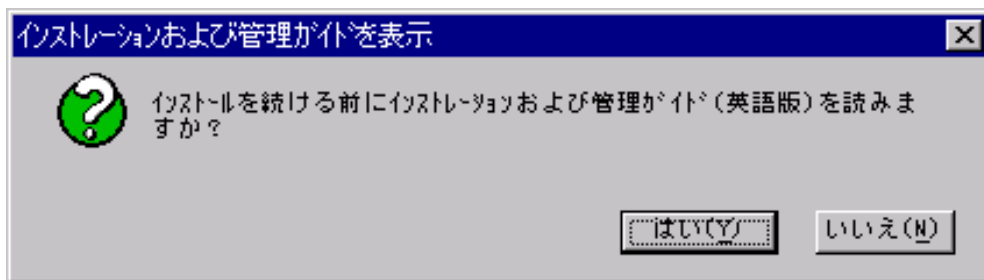
「Oracle インストール設定」ダイアログ・ボックスが開きます。



2. 次の情報を入力するか選択して、「OK」をクリックします。

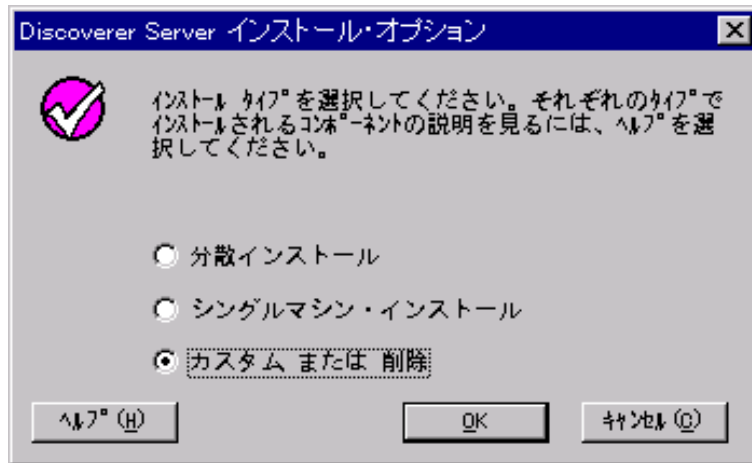
- 「会社名」： 会社名
- 「名前」： Discoverer Server 3.3 の [DEFAULT_HOME] を選択します。
- 「場所」： [DEFAULT_HOME] のパスを選択します。以前に DEFAULT_HOME に製品をインストールしていた場合は、このディレクトリを変更できません。
- 「言語」： このサーバーで使用する言語

「OK」をクリックします。「インストールおよび管理ガイドを表示」ダイアログ・ボックスが表示されます。

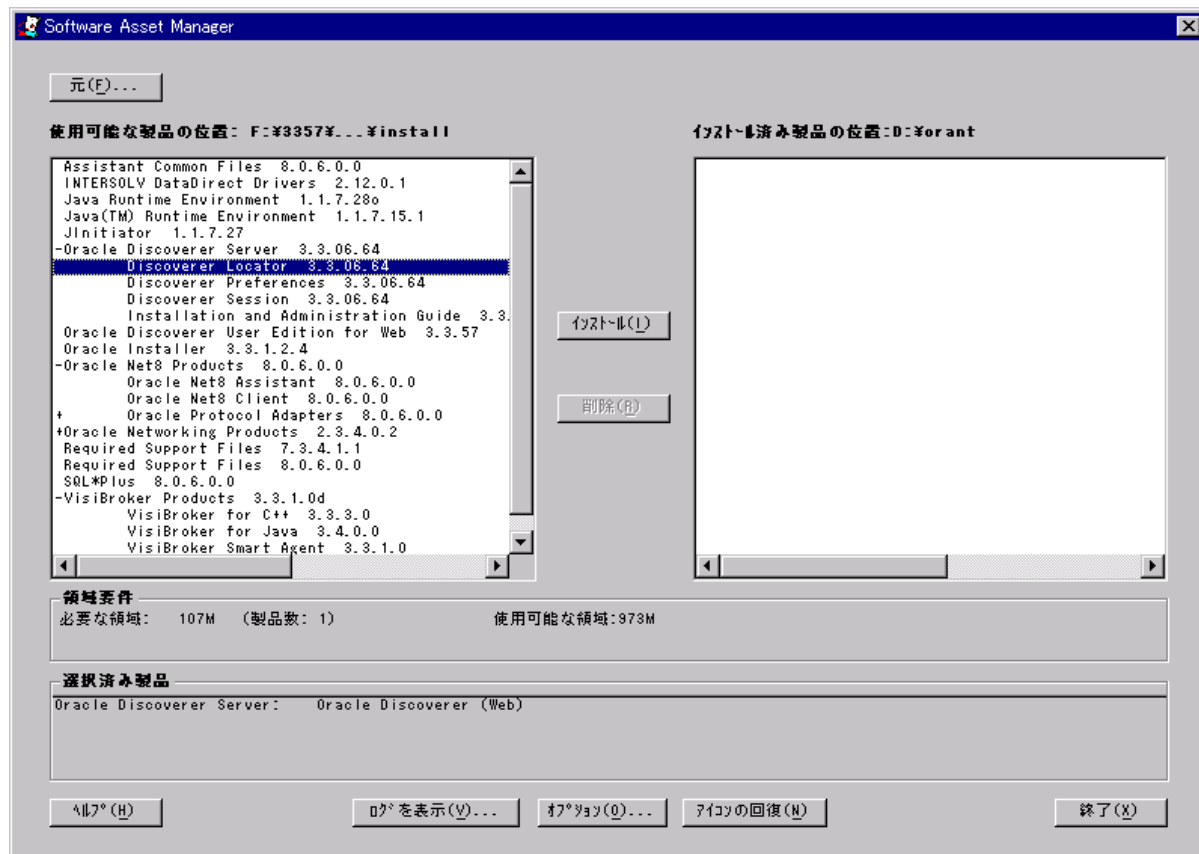


3. 「はい」をクリックすると英語版の『Discoverer 3i User Edition インストレーションおよび管理ガイド』を表示します。使用しているコンピュータのデフォルトの Web ブラウザが開き、インストレーション・ガイドの目次が表示されます。

Oracle Installer に戻ると、「Discoverer Server インストール・オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。



4. 「カスタムまたは削除」をクリックし、「OK」をクリックします。
「Software Asset Manager」が表示されます。



5. 「使用可能な製品の位置」リストの「Oracle Discoverer Server」の項目をダブルクリックし、各コンポーネントのリストを表示します。インストールするアイテムをクリックして選択します。
6. 「インストール」をクリックします。
7. 「ディレクトリ選択」ダイアログ・ボックスで、コンポーネントをインストールするディレクトリを確認し、「OK」をクリックします。

表示されるダイアログ・ボックスの詳細は、[2.3.1 項「複数のマシンへの Discoverer サーバーの分散インストール」](#)の Discoverer サーバーの分散インストールの説明を参照してください。

8. 現行のマシンにインストールする各コンポーネントに対し、前述の作業を繰り返します。
- これでインストールが完了しました。サーバーにインストールされたディレクトリをリスト表示する方法は、2-41 ページの [2.3.4 項「インストールされたディレクトリ」](#) を参照してください。

2.3.3.1 Solaris ユーザーのみ : identitydb.obj の Content Type の設定

ネットワークに Solaris ユーザーが存在し、かつクライアントで Netscape Navigator または Communicator が使用されている場合は、Java Plug-in をインストールして使用することをお勧めします。Java Plug-in は、セキュリティ・メカニズムとして identitydb.obj というファイルを使用しています。このバイナリ・ファイルは、クライアント・マシンすべてにダウンロードされている必要があります。

Netscape で、このファイルをテキスト・ファイルではなくバイナリ・ファイルとしてダウンロードするには、HTTP サーバーの拡張子リストに、ファイル拡張子 .obj を追加する必要があります。Content Type application/octet-stream に拡張子 obj を追加します。デフォルトでは、exe および bin などが設定されています。詳細は、HTTP サーバーのマニュアルを参照してください。

identitydb.obj ファイルは、<root or virtual path>/Discwb33/util にあります。詳細は、[2.7.3.2 項「Netscape Navigator と JInitiator」](#) を参照してください。

2.3.4 インストールされたディレクトリ

表 2-6 は、インストールされた HTTP サーバーおよびマスター Discoverer Server のディレクトリを示しています。

表 2-6

HTTP サーバー・ディレクトリ	マスター Discoverer Server サーバーのディレクトリ
ルート / 別名	Oracle_Home
/Discwb33	¥Discwb33
/applet	¥classes
/docs	¥util
/html	
/images	

表 2-6

HTTP サーバー・ディレクトリ	マスター Discoverer Server サーバーのディレクトリ
/jinit	
/util	

Discwb33 には、Preference と Session の各コンポーネントの dll ファイルおよびバイナリ・ファイルが含まれています。

- applet: Discoverer 3i Java アプレット・ファイル。
- classes: Locator コンポーネントのクラス・アーカイブが含まれます。
- docs: Discoverer 3i のマニュアル。
- html: Discoverer 3i にログインしたユーザーに対して表示される HTML ページ。
- images: HTML ページで使用するイメージ。
- jinit: JInitiator ファイルが含まれます。
- util: コンポーネントの登録および登録解除用のバッチ・ファイル一式。

2.3.5 実行可能ファイル

Discoverer Server コンポーネントの実行可能ファイルは、ディレクトリ <Oracle_Home>\¥Discwb33 にあります。これらの実行可能ファイルを次に示します。

- Session: dis33ws.exe
- Preferences: dis33pr.exe

実行可能ファイル dis33srv.exe で、OracleDiscoverer3i サービスが起動されます。

Locator コンポーネントで、Locator.ior ファイルが作成されます。

JInitiator ファイルは、クライアントにダウンロードされる実行可能ファイルです。JInitiator には、Java Virtual Machine (JVM) ファイルおよびセキュリティ・ファイルが含まれています。

2.4 Discoverer Server コンポーネントの削除

各マシンから、Discoverer Server コンポーネントの一部またはすべてを削除することができます。

1. コンポーネントを削除するマシンに Discoverer 3i CD-ROM を挿入します。Oracle Installer が起動されます。Installer が起動されない場合は、CD-ROM のルート・ディレクトリにある Setup.exe をダブルクリックしてください。

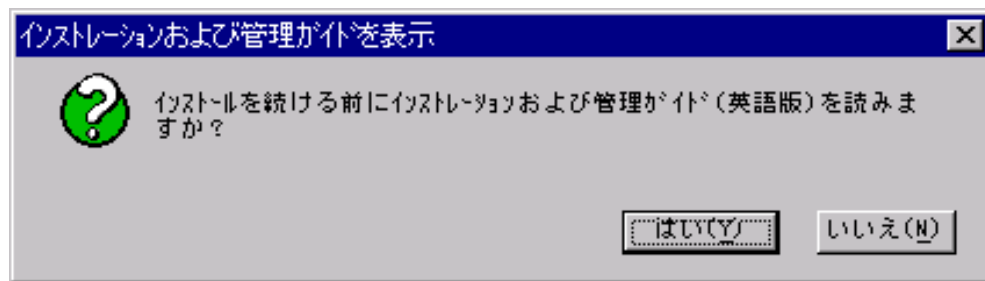
「Oracle インストール設定」ダイアログ・ボックスが開きます。



2. 次の情報を入力するか選択して、「OK」をクリックします。

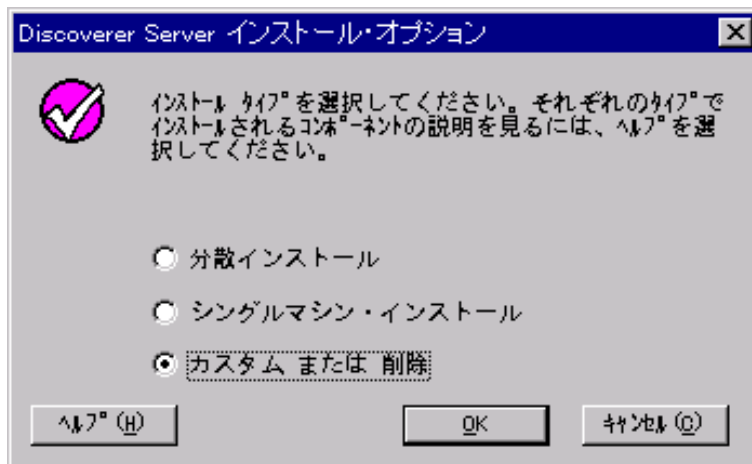
- 「会社名」： 会社名
- 「名前」： Discoverer Server 3.3 の [DEFAULT_HOME] を選択します。
- 「場所」： [DEFAULT_HOME] のパスを選択します。以前に DEFAULT_HOME に製品をインストールしていた場合は、このディレクトリを変更できません。
- 「言語」： このサーバーで使用する言語

「OK」をクリックします。「インストールおよび管理ガイドを表示」ダイアログ・ボックスが表示されます。

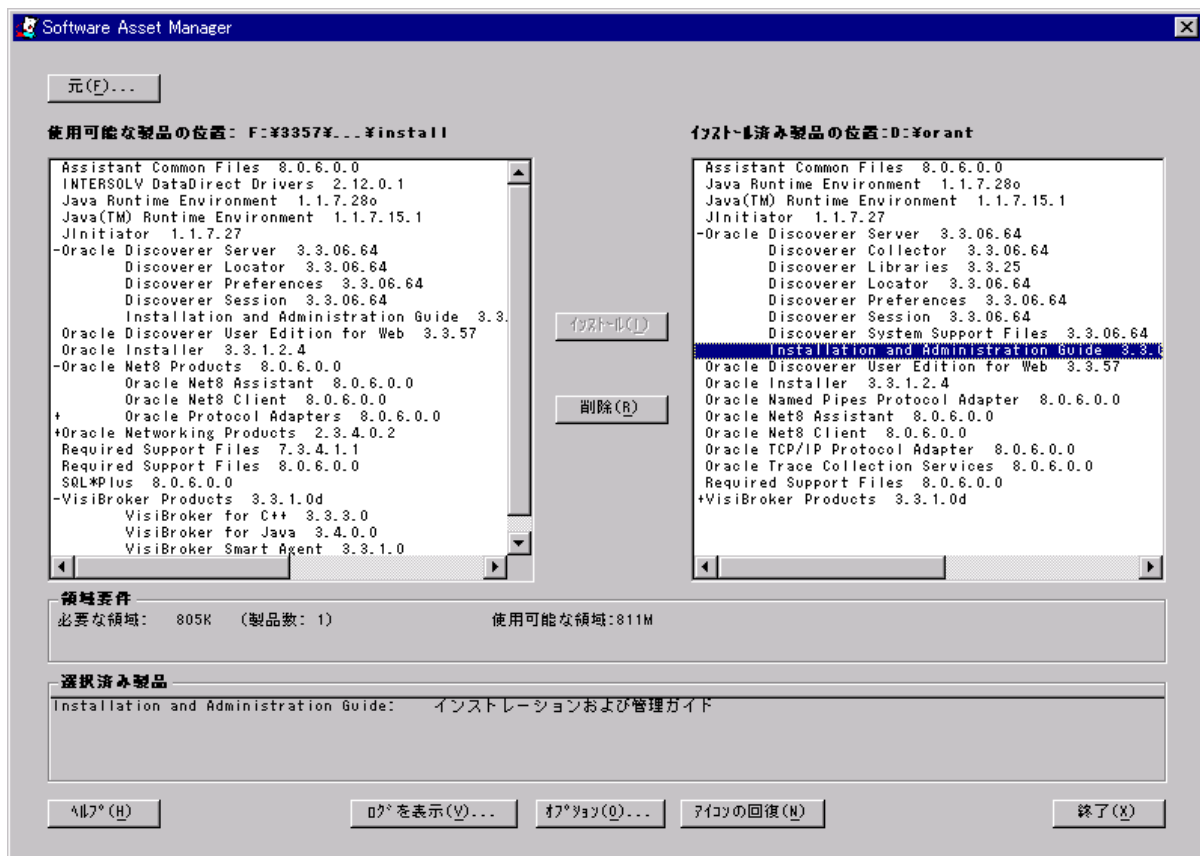


3. 「はい」をクリックすると英語版の『Discoverer 3i User Edition インストレーションおよび管理ガイド』を表示します。使用しているコンピュータのデフォルトの Web ブラウザが開き、インストレーション・ガイドの目次が表示されます。

Oracle Installer に戻ると、「Discoverer Server インストール・オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。



4. 「カスタムまたは削除」をクリックし、「OK」をクリックします。
「Software Asset Manager」が表示されます。



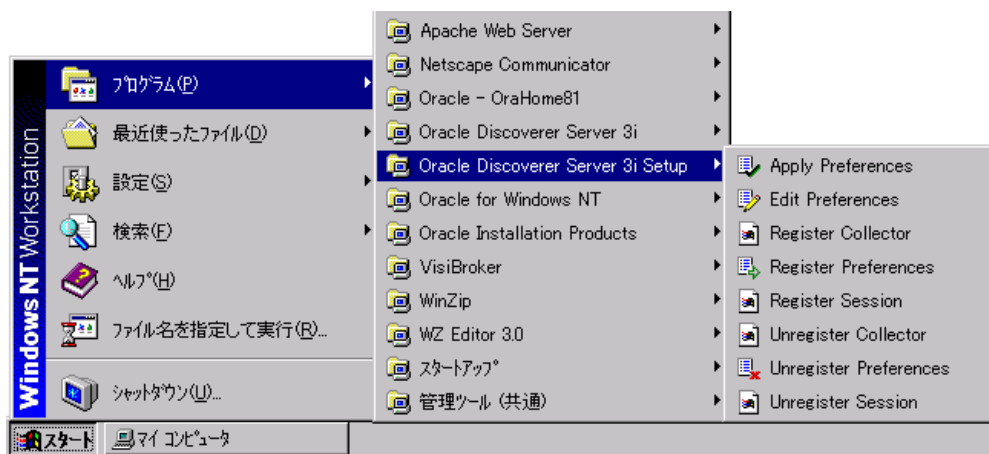
5. マシンにインストールされている製品のリストで、削除するコンポーネントを選択します。[Ctrl] を押しながらかlickすると複数のコンポーネントを選択できます。
6. 「削除」をクリックします。
7. 表示されるダイアログ・ボックスで、削除するコンポーネントが適切か確認し、「OK」をクリックします。

2.5 サーバー・コンポーネントの登録

サーバーおよびエンド・ユーザーの設定項目を構成する前に、Session コンポーネントと Preference コンポーネントを Discoverer Locator に登録する必要があります。これらのコンポーネントは、Oracle Installer により自動的に登録されます。何らかの理由により、コンポーネントが正しく登録されない場合は、Windows の「スタート」メニューから手動で登録または登録解除することができます。コマンドラインからのコンポーネントの登録および登録解除の詳細は、3.5 項「コンポーネントの登録および登録解除」を参照してください。

Session コンポーネントと Preferences コンポーネントの登録方法は次のとおりです。

1. コンポーネントの登録または登録解除を行うマシン上で、Windows の「スタート」メニューから「プログラム」→「Oracle Discoverer Server 3i Setup」の順に選択します。



2. 登録または登録解除するコンポーネントを選択します。確認画面が表示されます。
3. コンポーネントごとにこれを繰り返して、登録または登録解除を行います。

2.6 Discoverer Server の構成

インストール後、Discoverer Server が自動的に起動されます。ただし、サーバーおよびエンド・ユーザー設定項目を構成する必要があります。Discoverer Server Preference を編集してサーバーの IP アドレスを入力する必要があります。一般に、構成には次の 2 つの作業があります。

- Discoverer Server Preferences の編集および負荷均衡の設定
- tnsnames.ora ファイルの編集

2.6.1 Discoverer サーバー Preferences の編集

Discoverer Preferences コンポーネントは、分散インストールの場合はマスター Discoverer Server に、シングル・マシン・インストールの場合は HTTP サーバー（唯一のマシン）にあります。

Preferences には、Discoverer 3i セッションが実行される各マシンの IP アドレスまたはマシン名を含める必要があります。Session コンポーネントをインストールした各マシンでのセッションの開始順序は、Preferences における IP アドレスの順序によって決まります。したがって、サーバーにかかる負荷は、これらのマシンを特定の順序で設定することによって、効果的に分散させることができます。

2.6.1.1 負荷均衡の例

Locator は、Preferences にリストされている IP アドレスまたはマシン名を使用し、ラウンドロビン方式に基づいて、次に要求されたセッション開始するマシンを決定します。各マシンの Locator は、セッションを IP アドレスのリストの最後に到達するまで順番に要求していきます。リストの最後に到達すると、Locator は再びリストの最初から前述の動作を行います。

したがって、第 1 のセッション、第 2 のセッション、第 3 のセッションなど、各セッションを開始するマシンを決定する場合は、各サーバー・マシンのスピードおよびパフォーマンスを考慮して順番を決めます。参考：1 つのセッションにつき約 3.8 ～ 18 MB のメモリーが必要になります。

たとえば、1 つのマシンで 5 つのセッションを処理した後で、次のマシンを使用することも考えられます。その場合は、最初のマシンの IP アドレスを 5 回入力した後で、次のマシンのアドレスを入力します。

負荷均衡は、パフォーマンスに大きな影響を与える可能性があるため、Preferences ファイルの編集前にそのプランニングを行うことをお勧めします。

例 1 同じ性能のマシンによる負荷均衡

Discoverer Sessions が、2 つのアプリケーション・サーバーにインストールされています。各マシンのプロセッサ・スピードおよび RAM は同じです。これら 2 つのマシンの IP アドレスは次のようになります。

表 2-7 サンプル・サーバー名

サーバー	名前	IP アドレス
アプリケーション・サーバー (1)	disco1	123.45.67.1
アプリケーション・サーバー (2)	disco2	123.45.67.2

アプリケーション・サーバー (1) で最初の要求を、アプリケーション・サーバー (2) で次の要求をそれぞれ処理し、その次の要求はまたアプリケーション・サーバー (1) で処理するとします。

この場合、Preferences ファイルのエントリは次のようになります。

```
Machine IPs="disco1, disco2"
```

または

```
Machine IPs="123.45.67.1, 123.45.67.2"
```

Preferences ファイルでは、エントリはカンマで区切ります。エントリは二重引用符で囲んでください。

注意： マシン名を使用すると参照が 1 回増えるため、IP アドレスを使用した方が幾分速くなります。IP アドレスの使用とマシン名の使用の比較については、システム管理者に問い合わせてください。

例 2 速いマシン 1 台とその他 2 台のマシンによる負荷均衡

Discoverer Sessions が、3 つのアプリケーション・サーバーにインストールされています。1 番目のアプリケーション・サーバーのプロセッサが最速で、RAM も最大です。2 番目と 3 番目のアプリケーション・サーバーは同じプロセッサ・スピードと RAM を備えています。

これら 3 つのマシンの IP アドレスは次のようになります。

表 2-8 サンプル・サーバー名

サーバー	名前	IP アドレス
アプリケーション・サーバー (1)	serve1	123.45.67.1
アプリケーション・サーバー (2)	serve2	123.45.67.2
アプリケーション・サーバー (3)	serve3	123.45.67.3

アプリケーション・サーバー (1) で最初の 3 つの要求を、アプリケーション・サーバー (2) で次の要求を、アプリケーション・サーバー (3) でその次の要求をそれぞれ処理し、その後はまたアプリケーション・サーバー (1) に戻って、さらにその次の 3 つの要求を処理するとします。

この場合、Preferences ファイルのエントリは次のようになります。

```
Machine IPs="serve1, serve1,serve1, serve2, serve3"
```

または

```
Machine IPs="123.45.67.1,123.45.67.1,123.45.67.1, 123.45.67.2, 123.45.67.3"
```

2.6.1.2 Preferences ファイルの編集

Preferences ファイルに必要な情報は、Discoverer 3i が使用されているサーバーの IP アドレスまたはマシン名のみです。Preferences ファイルのその他の項目は、ネットワークまたは

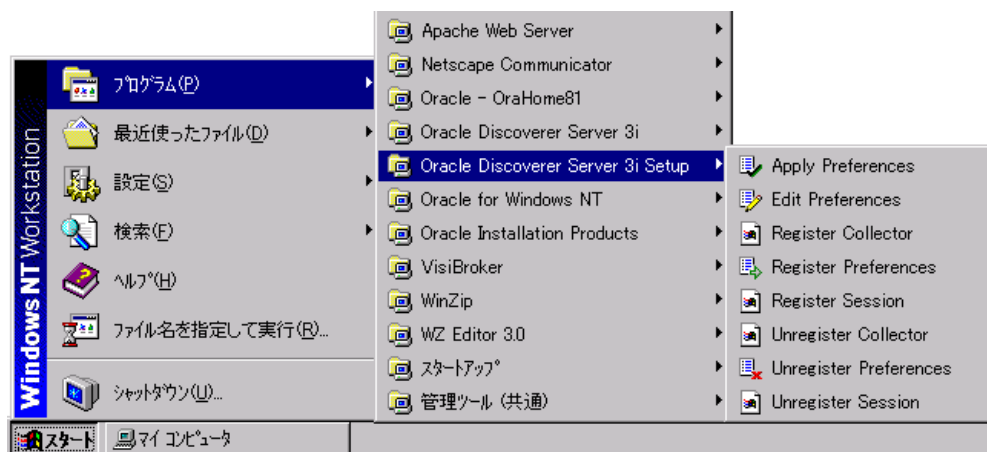
ユーザーの要件にあわせて必要な場合に編集します。詳細は、[3.4 項「エンド・ユーザー Preferences の編集」](#)を参照してください。

Preferences ファイルには Prefs.txt という名前が付けられています。

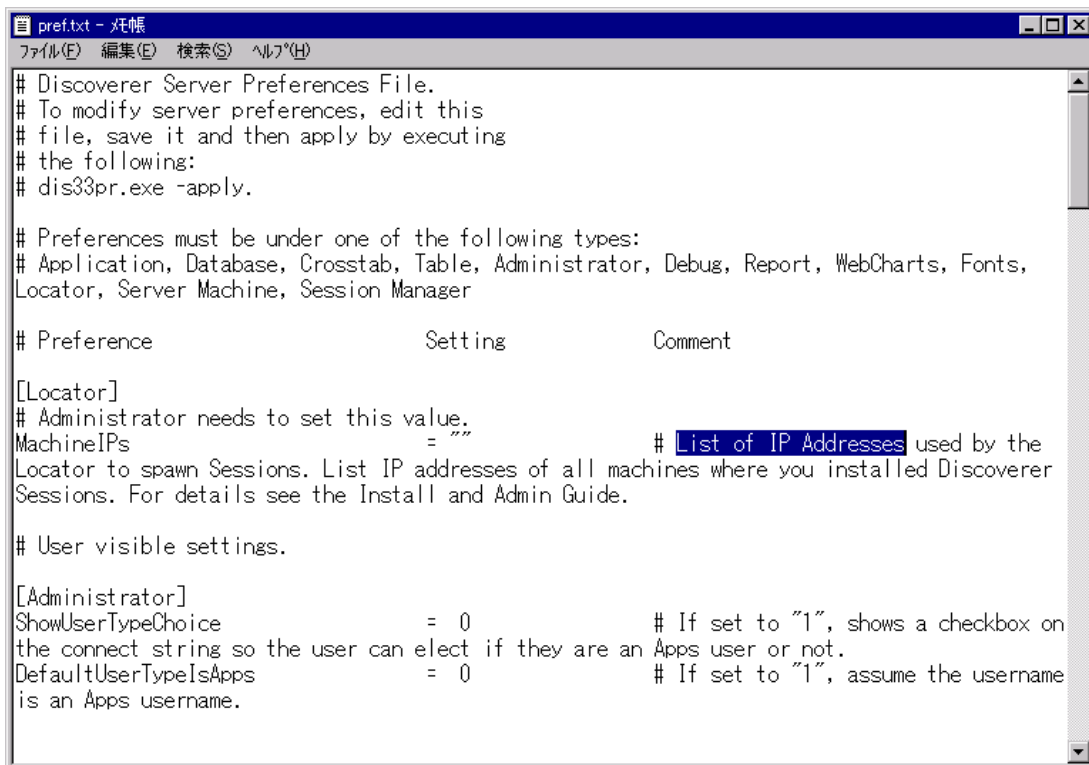
<orahome>%DISCWB33%util%defaults.txt（またはマスター Discoverer サーバーをインストールした場所、つまり Preferences コンポーネントをインストールした場所）に、Prefs.txt のバックアップ・コピーがあります。編集中にミスをした場合、または Prefs.txt ファイルが壊れるか失われた場合は、このバックアップファイルを使用してデフォルトの値に設定し直します。

Preferences ファイルを編集するときは、Preferences コンポーネントをインストールしたマシンで行ってください。

1. Windows の「スタート」メニューから「プログラム」→「Oracle Discoverer Server 3i Setup」→「Edit Preferences」の順に選択します。



ファイル Prefs.txt がメモ帳アプリケーションで開きます。



```
# Discoverer Server Preferences File.
# To modify server preferences, edit this
# file, save it and then apply by executing
# the following:
# dis33pr.exe -apply.

# Preferences must be under one of the following types:
# Application, Database, Crosstab, Table, Administrator, Debug, Report, WebCharts, Fonts,
# Locator, Server Machine, Session Manager

# Preference                Setting          Comment

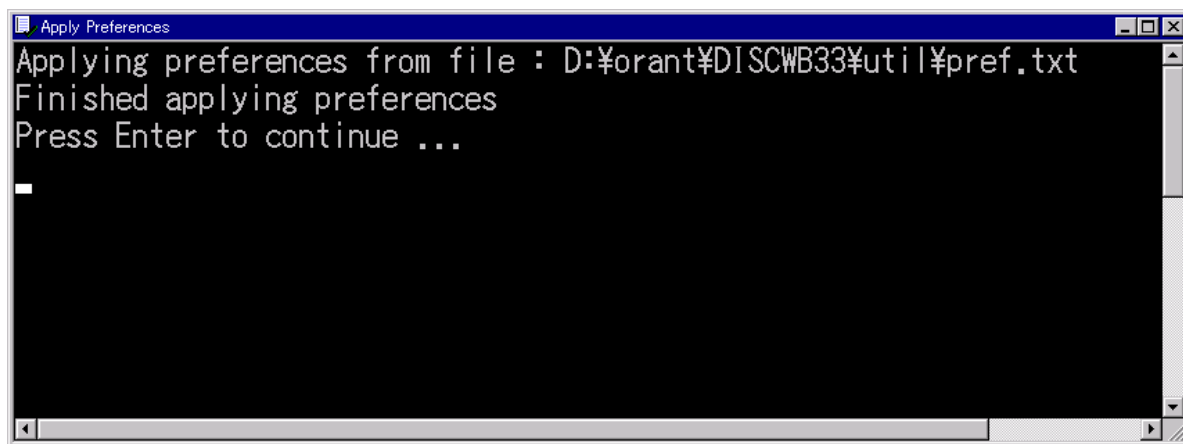
[Locator]
# Administrator needs to set this value.
MachineIPs                  = ""          # List of IP Addresses used by the
Locator to spawn Sessions. List IP addresses of all machines where you installed Discoverer
Sessions. For details see the Install and Admin Guide.

# User visible settings.

[Administrator]
ShowUserTypeChoice          = 0          # If set to "1", shows a checkbox on
the connect string so the user can elect if they are an Apps user or not.
DefaultUserTypeIsApps       = 0          # If set to "1", assume the username
is an Apps username.
```

2. 各マシンの IP アドレスまたはマシン名を、ファイルの先頭の、MachineIPs 項目というラベルの付いた行に入力します。
3. IP アドレスまたはマシン名をカンマで区切り、リスト全体を二重引用符で囲みます。たとえば、"server1,server2,server3" のように入力します。
4. Preferences の編集が完了した後、保存してメモ帳を終了します。
5. 次に、Windows の「スタート」メニューから「プログラム」→「Oracle Discoverer Server 3i Setup」→「Apply Preferences」の順に選択します。

新しい属性が保存されたことを示す確認ウィンドウが表示されます。ファイルにエラーがあると考えられる場合は、現行のディレクトリの error.txt ファイルをチェックします。



続行する場合は、[Enter] キーを押します。

Windows NT レジストリの Preferences が更新されます。これで Discoverer Server インスタンスの Preferences が設定されました。

2.6.1.3 tnsnames.ora ファイルの編集

セッションが実行されるすべてのマシンで、同じ tnsnames.ora ファイルを使用してください。tnsnames.ora ファイルには、ユーザーが Discoverer 3i またはその他の Oracle 製品を使用してアクセスする、全データベースの名前および別名が記載されています。使用する各データベースの SID を tnsnames.ora ファイルに入力します。

tnsnames.ora ファイルの編集方法の一例を次に示します。

1. Windows の「スタート」メニューから「プログラム」→「Oracle for Windows NT」→「Oracle Net8 Easy Config」の順に選択します。
プログラムが実行され、Net8 構成の編集が可能になります。
2. Discoverer Session コンポーネントが複数のマシンにインストールされている場合は、編集後の正しい tnsnames.ora ファイルを他のマシンにコピーします。

2.7 アクセス権の付与

HTML ページは、ブラウザのネイティブ Java Virtual Machine (JVM) または Oracle JInitiator を使用して、Discoverer 3i へアクセスできるように、インストール時に自動的に構成されます。Microsoft Internet Explorer を使用している場合は、ネイティブ JVM を利用している HTML ページが自動的に表示され、Netscape Navigator を使用している場合は、JInitiator 用の HTML ページが自動的に表示されます。

Discoverer 3i のアクセス権を付与するには、次の 2 通りの方法があります。

- 社内の HTML ページから、Discoverer 3i へのリンクを設定します。
- 「Discoverer 3i Welcome」ページの URL をユーザーに与えます。

特定のワークブックにより Discoverer を簡単に起動するためのカスタム URL 作成の詳細は、3.3 項「Discoverer を自動的に起動するための URL」を参照してください。

2.7.1 社内の HTML ページからのリンク設定

「Discoverer 3i Welcome」ページへのリンクを作成すると、Discoverer 3i を起動する際長いパスを入力する必要がなくなります。

Discoverer の HTML ページを移動させる場合は、必ず次のようにその HTML ページへのリンクを編集してください。

```
<a href="http://<root or virtual path>/Discwb33/html/japanese/welcome.html">text of link</a>
```

2.7.2 クライアント・マシンからの Discoverer 3i の起動

Discoverer 3i を起動したときに、次の 3 つの HTML ページが表示されます。

- 「言語と地域の選択」ページ： Web ブラウザで次の場所を指定すると表示されます。
http://<root or virtual path>/Discwb33/html/<language>/welcome.htm
このページで、使用する言語と地域（たとえばカナダのフランス語）を選択します。選択内容により、Discoverer で表示される時間、通貨およびその他の地域情報が変わります。
- 「セットアップ」ページ： Web ブラウザで次の場所を指定すると表示されます。
http://<root or virtual path>/Discwb33/html/<language>/netscape/jinit.htm
Netscape Navigator を使用するエンド・ユーザーは、このページの説明に従って Oracle JInitiator をダウンロードします。
- 「Discoverer スタート・ページ」： Web ブラウザで次の場所を指定すると表示されます。
http://<root or virtual path>/Discwb33/html/<language>/<ms_ie or netscape>/<start_nn.htm or start_ie.htm>
このページでは、Discoverer 3i アプレットがロードされます。start.htm ページには、Microsoft Internet Explorer 用と Netscape 用があることに注意してください。

2.7.3 Java セキュリティについての注意

この項では、Microsoft Internet Explorer の Java セキュリティおよび Oracle JInitiator を使用した場合の Netscape Navigator について説明します。

2.7.3.1 Microsoft Internet Explorer

ユーザーが Discoverer 3i を実行する場合、2つのセキュリティ認証が表示されます。これらは標準の認証で、開発者はこれによってアプリケーションに「署名」できます。署名することにより、アプリケーションの出所が明示されるため、ユーザーは、その出所が信頼できるものであるかどうか確認できます。Oracle が、Discoverer 3i アプリケーションに署名しているため、このアプリケーションは信頼できるものとなっています。

署名されたアプリケーションを受け入れるということは、アプリケーションがクライアントのハード・ドライブに対する読み込み、書き込み、およびファイルのオープン、クローズなどが可能になることを意味します。Discoverer では、Discoverer 3i が要求した権限をユーザーが許可する必要があります。

ユーザーは、署名された Discoverer 3i アプリケーションを受け入れ、「Oracle Corporation からのコンテンツを常に信頼する」のボックスをチェックします。この認証を行わないと、Discoverer 3i は正しく作動しません。Microsoft Internet Explorer における「セキュリティの警告」ダイアログ・ボックスの例を次に示します。



2.7.3.2 Netscape Navigator と JInitiator

Netscape ユーザーの場合、Discoverer 3i は JInitiator を使用します。JInitiator は identitydb.obj ファイルを使用して、アプレットが信頼できるかどうか確かめます。基本的

にはこれが JInitiator のセキュリティ・メカニズムです。JInitiator は標準の JDK 1.2 キーを使用して、identitydb.obj というファイルの管理リソースを認定します。このファイルは、信頼されたキーなどの暗号情報を追跡し記録する際に使用されます。

署名されたアプレットを実行するエンド・ユーザーの各マシンに、適切な identitydb.obj ファイルを配置する必要があります。JInitiator でブラウザを実行しているユーザーの場合、identitydb.obj は、Jinitiator が要求する適切な場所に、自動的にインストールされます。JInitiator の使用時に、identitydb.obj の場所を気にする必要はありません。

Solaris 上でブラウザを Java Plug-in と共に実行しているユーザーの場合、Java Plug-in が確認できるよう、identitydb.obj ファイルをユーザーのホーム・ディレクトリにコピーする必要があります。Discoverer 3i をクライアント・コンピュータに初めてダウンロードする場合は、その前に、セットアップ・ページが表示されます。ユーザーが、Solaris 上で Java Plug-in を使用している場合に限り、セットアップ・ページに identitydb.obj ファイルへのハイパーリンクが設定されます。

Solaris プラットフォームで実行しているユーザーの場合、コンソールに表示されたディレクトリに、identitydb.obj があるかどうか確かめてください。Java 1.1.1 では、Solaris マシンのユーザーのホーム・ディレクトリは、通常 \$HOME にあります。

JInitiator は、クライアント・マシンにコントロール・パネルを作成します。このコントロール・パネルには、各ユーザーによる設定が可能な JVM オプションが含まれています。

Discoverer 3i のメンテナンスおよびサポート

この章では、Discoverer 3i のメンテナンス方法について説明します。

説明するトピックは次のとおりです。

- Discoverer の NT サービスの使用
- 登録された Discoverer サーバー・コンポーネントの表示
- Discoverer を簡単に起動するための URL の使用
- エンド・ユーザー Preferences の編集
- Discoverer 3i Param タグ
- コンポーネントの登録および登録解除
- シャットダウンと再起動
- Discoverer Server ネットワークでのサーバーの追加および削除

3.1 Discoverer サービスの使用

NT サービスは、起動時に NT によって自動的に起動される特別なプロセスです。一般的な NT サービスにより、ネットワークやリモート・アクセス手順などの様々なコンピュータ処理、Server および Telephony プロセス等が起動されます。Discoverer のインストール時に、1 つの NT サービスが Discoverer によって作成され、インストールされます。NT マシンが起動されるたびに、OracleDiscoverer3i と呼ばれる NT サービスにより Locator および CORBA サービスが自動的に開始されます。NT サービスを使用しているので、サービスの実行を停止するだけで Discoverer のコンポーネントをすべて停止することもできます。

Discoverer のサーバー・コンポーネントを 1 つの NT サービスとして起動する主な利点は、サービスの（つまりサーバー・コンポーネントの）実行を続けるために、マシンにログインしている必要はないということです。各マシン上でそれぞれのコンポーネントを個別に起動した場合は、管理者としてマシンにログインしている必要があります。ログオフすると、コンポーネントは自動的に停止されます。

Discoverer サービスでは Discoverer のインストール時に選択されたサーバーのタイプに基づいて、適切なコンポーネントが Discoverer サービスにより実行されます。選択されたサーバーと、Discoverer サービスによって起動されるコンポーネントを次の表に示します。

表 3-1 Discoverer サービス・コンポーネント

サーバー	Locator	CORBA サービス	OAD
マスター		○	○
HTTP	○	○	
その他		○	○
シングル・マシン・インストール	○	○	○

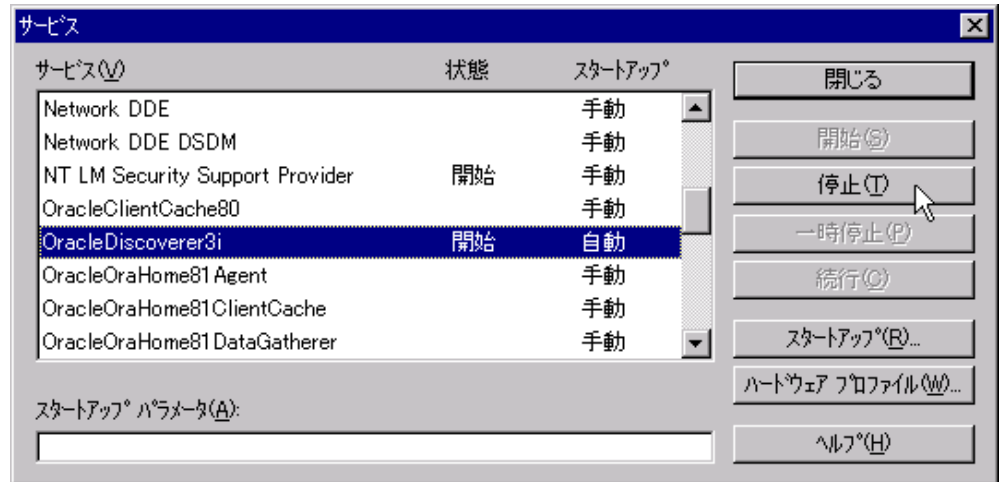
Discoverer サービスは自動的に起動するように設定されますが、Windows の「スタート」メニューから「設定」→「コントロール パネル」→「サービス」を選択して、手動で起動、停止することもできます。

カスタム・インストールの場合は、Locator をインストールしたマシン上で Discoverer サービスにより Locator および Smart Agent (OSAgent) が自動的に起動されます。Session および Preferences コンポーネントをインストールしたマシンでは、Discoverer サービスにより CORBA サービスが自動的に起動されます。

Discoverer サービスを手動で起動するには、次のようにします。

1. Windows の「スタート」メニューから「設定」→「コントロール パネル」の順に選択し、「サービス」アイコンをダブルクリックします。

「サービス」ダイアログ・ボックスが表示されます。ダイアログ・ボックスには、「OracleDiscoverer3i」サービスが表示されています。



状態: サービスが起動され、実行中であるかどうかが表示されます。実行中でなければステータスの列はブランクです。

スタートアップ: サービスが手動で起動されたのか、自動的に起動されたのかが表示されます。Discoverer サービスは、自動的に起動するように設定されます。

2. サービスを停止するには、ダイアログ・ボックスでサービスを選択し、「停止」ボタンをクリックします。次に、ダイアログ・ボックスを閉じます。
3. サービスを起動するには、ダイアログ・ボックスでサービスを選択し、「開始」ボタンをクリックします。次に、ダイアログ・ボックスを閉じます。

注意: エンド・ユーザーが Oracle Application に対して Discoverer を実行する場合は、Locator を起動する前に必ず Listener をシャットダウンしてください。

コンピュータの起動時に、Discoverer サービスが自動的に起動されないように、サービスのスタートアップの種類を変更できます。特定の順序での起動と停止を必要とする特別なサービスがネットワークで必要な場合に有効です。他のサービスを起動した後に、適当な時点で Discoverer サービスを手動で起動できます。

Discoverer サービスの起動を手動に変更するには、次のようにします。

1. Windows の「スタート」メニューから「設定」→「コントロール パネル」の順に選択し、「サービス」アイコンをダブルクリックします。

- 「サービス」ダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 「サービス」ダイアログ・ボックス内の「OracleDiscoverer3i」サービスを選択します。
 3. 「スタートアップ」ボタンをクリックします。
「OracleDiscoverer3i」サービスに対する「サービス」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 4. 「サービス」ダイアログ・ボックスの「スタートアップの種類」セクションで「手動」を選択します。
 5. 「OK」をクリックします。

3.1.1 サービス・エラーの表示

NT イベント・ログでは、Discoverer サービスの起動時に発生するエラーが表示されます。NT イベント・ログを表示するには、「スタート」→「プログラム」→「管理ツール」→「イベントビューア」の順に選択します。

Discoverer では、HTTP サーバー上で Locator を実行している際に発生するエラーの内部ログも保持されます。エラーのリストを表示するには、HTTP サーバーのルート・ディレクトリ内の DiscWb33¥applet ディレクトリ（または、Discoverer クライアントを他のディレクトリにインストールしている場合はそのディレクトリ）にある locator.log ファイルを開きます。Locator を HTTP サーバーにインストールしないカスタム・インストールの場合は、locator.log ファイルは %ORACLE_HOME%¥DiscWb33 ディレクトリにあります。

3.2 登録された Discoverer サーバー・コンポーネントの表示

インストールされたコンポーネントは、VisiBroker OAD（Object Activation Daemon）に登録されています。1つのマシン、またはネットワーク全体の登録済みコンポーネントを表示できます。

1つのマシンに登録されたコンポーネントを表示するには次の手順を実行します。

1. OAD が実行中であることを確かめます。

OAD が実行中であるかどうかを確認するには、Windows タスクマネージャを起動して([Ctrl] キーを押しながら [Alt] と [Del] を同時に押し、「タスクマネージャ」ボタンをクリックする) oad.exe が実行されており、応答することを確認します。

OAD が実行中でない場合は、Windows の「スタート」メニューから「設定」→「コントロール パネル」の順に選択します。「サービス」をダブルクリックし、「Oracle Discoverer3i」を選択し、「開始」ボタンをクリックします。OAD が実行中でも応答しない場合は、「停止」ボタンをクリックし、再度「開始」ボタンをクリックします。OAD が正しく開始された場合は「閉じる」をクリックします。

2. MS-DOS ウィンドウを開きます（「スタート」→「プログラム」→「コマンド プロンプト」の順に選択する）。

3. コマンド・プロンプトで次のように入力し、リターン・キーを押します。

```
oadutil list
```

注意： oadutil コマンドを実行すると、そのマシンに登録されたコンポーネントのリストのみが表示されます。Discoverer マシンのネットワークに登録されたすべてのコンポーネントが表示されるわけではありません。

```
C:\¥>oadutil list
oadutil list: located 3 record(s)

Implementation #1:
-----
repository_id      = IDL:DCISessionManager:1.0
object_name        = PayablesOracleDiscovererSession3.3
reference_data      =
path_name          = D:\¥orant¥DISCWB33¥dis33ws.exe
activation_policy   = UNSHARED_SERVER
args               = (length=4)[-session; PayablesOracleDiscovererSession3.3; ]
preference; PayablesOracleDiscovererPreferences3.3; ]
env                = NONE

Implementation #2:
-----
repository_id      = IDL:DCICollector:1.0
object_name        = PayablesOracleDiscovererCollector3.3
reference_data      =
path_name          = D:\¥orant¥DISCWB33¥dis33col.exe
activation_policy   = SHARED_SERVER
args               = (length=2)[-collector; PayablesOracleDiscovererCollector3.3; ]
env                = NONE

Implementation #3:
-----
repository_id      = IDL:DCICORBAInterface:1.0
object_name        = PayablesOracleDiscovererPreferences3.3
reference_data      =
path_name          = D:\¥orant¥DISCWB33¥dis33pr.exe
activation_policy   = SHARED_SERVER
args               = (length=2)[-preference; PayablesOracleDiscovererPreference
s3.3; ]
env                = NONE
```

この例のコンポーネントは、Discoverer インスタンス名「Payables」で登録されています。このマシンに登録されているコンポーネントは、Preferences と Session の 2 つです。ログを記録するための Collector ファイルも登録されています。

「その他の Discoverer Server」でこのコマンドを使用した場合は、Session コンポーネントのみが登録されているはずです。

ネットワークに登録されたすべてのコンポーネントを表示するには、次の手順を実行します。

1. MS-DOS ウィンドウを開きます。
2. コマンド・プロンプトで次のように入力し、リターン・キーを押します。

```
osfind
```

ネットワークで実行されているすべてのコンポーネントのリストが表示されます。

3.3 Discoverer を自動的に起動するための URL

エンド・ユーザーがログインして、ワークブックを選択した後、パラメータ値を選択するかわりに、エンド・ユーザーが Discoverer アプレットを簡単に起動できる URL を作成できます。アプレットの起動の他に、必要な設定の明示的な指定もできます。たとえば、開くワークブックや使用するパラメータ値を指定できます。

URL を作成すれば、Web ブラウザに入力する URL をエンド・ユーザーに提供できます。また、エンド・ユーザーが Discoverer をシングル・クリックで起動できるように、URL をリンクとして企業のイントラネット・サイトに追加することもできます。URL を使用して Discoverer を自動的に起動すると、エンド・ユーザーの時間が節約できるのみでなく、エンド・ユーザーが使用するワークブックの制御も可能になります。URL を使用すると、次のことが可能になります。

- ユーザー名、パスワードおよびデータベース名または別名を指定して、「**接続**」ダイアログを省略する。
- エンド・ユーザーが接続する EUL を含むスキーマを指定する。
- ワークブックおよび特定のワークシートを開く。
- ワークシートのパラメータに対する値を指定する。
- Discoverer 3i アプリケーション・ウィンドウの高さと幅（ピクセル数）を選択する。
- エンド・ユーザーの使用する、言語、キャラクタ・セット、地域の日付および数値書式を指定する。

3.3.1 URL の作成

作成する URL は、たとえば以下のように、標準の URL コマンドライン構文に従う必要があります。

`http://<Discoverer 3i スタート・ページ URL>?arg1=value1&arg2=value2&...&argN=valueN`

?, & および = の標準の URL セパレータ文字を使用することができます。また、標準の URL エンコーディング構文に従うように、英数字以外の文字をすべてエンコードする必要があります。

注意： Windows プラットフォーム上でコマンドラインから Discoverer を起動することに精通している場合、Discoverer 3i には /? に相当する引数はありません。

1. 前述の例では、<> の部分を、「Discoverer 3i スタート・ページ」ページへのパス、つまりエンド・ユーザーが Discoverer アプレットを起動するために通常「**Start**」ボタンをクリックする Web ページへのパスに置き換えます。たとえば、
`http://.../DISCWB33/html/japanese/ms_ie/start_ie.htm` とします。
2. スタート・ページ URL の直後にセパレータ文字 ? を追加して、引数のリストの先頭を示します。たとえば、`http://.../DISCWB33/html/japanese/ms_ie/start_ie.htm?` とします。
3. ? の後に引数を指定します。構文 `arg1=value1` を使用します。たとえば、引数 `FrameDisplayStyle=separate` は、エンド・ユーザーが「**Start**」ボタンをクリックしなくても、Discoverer が別のフレームですぐに起動するように指示します。URL は次のようになります。
`http://.../DISCWB33/html/japanese/ms_ie/start_ie.htm?FrameDisplayStyle=separate`
4. さらに引数を追加する場合は、セパレータ文字 & を使用します。たとえば、次のようになります。
`http://.../DISCWB33/html/japanese/ms_ie/start_ie.htm?FrameDisplayStyle=separate&DefaultConnect=mydatabase`
5. URL をエンド・ユーザーに提供するか、URL を企業のイントラネット・サイトにリンクとして追加します。

表 3-2 に、URL で使用可能な引数と値の例を示します。

表 3-2 URL の引数と値

引数と値	目的	例
FrameDisplayStyle= <launched または separate>	Discoverer アプリケーショ ン・フレームを表示する方法 を指定します。 「launched」は、アプレット の「Start」ボタンをコール側 HTML に埋め込みます。エン ド・ユーザーは、「Start」ボ タンをクリックする必要があります。 「separate」は、エンド・ユー ザーのために Discoverer アプ レットを自動的に起動しま す。エンド・ユーザーは、 「Start」ボタンをクリックす る必要はありません。	FrameDisplayStyle=separate エンド・ユーザーが「Start」ボタン をクリックしなくても、Discoverer フレームがすぐに別のウィンドウで 開きます。
WindowWidth=< ピクセル 数 >	Discoverer アプリケーショ ン・フレームの幅をピクセル で指定します。この引数を使 用しない場合、Discoverer の デフォルト値を使用します。	WindowWidth=800 Discoverer フレームの幅は 800 ピク セルとなります。
WindowHeight=< ピクセ ル数 >	Discoverer アプリケーショ ン・フレームの高さを、ピク セルで指定します。この引数 を使用しない場合、 Discoverer のデフォルト値を 使用します。	WindowHeight=600 Discoverer フレームの高さは 600 ピ クセルとなります。
DefaultUsername=< デー タベースのユーザー名 >	Discoverer が起動すると、エン ド・ユーザーに「接続」ダ イアログが表示されます。こ の引数を使用すると、「ユー ザー名」フィールドに値が自 動的に入力されます。ユー ザーはこのユーザー名を上書 きできます。	DefaultUsername=video_user

表 3-2 URL の引数と値

引数と値	目的	例
DefaultPassword= < 文字列 >	Discoverer が起動すると、エンド・ユーザーに「 接続 」ダイアログが表示されます。この引数を使用すると、「 パスワード 」フィールドに値が自動的に入力されます。ユーザーはこのパスワードを上書きできます。	DefaultPassword=secret_code
DefaultConnect=< データ ベース名または別名 >	Discoverer が起動すると、エンド・ユーザーに「 接続 」ダイアログが表示されます。この引数を使用すると、「 データベース 」フィールドに値が自動的に入力されます。ユーザーはこのデータベース名または別名を上書きできます。	DefaultConnect=demodb
connect=< 接続文字列 >	接続文字列 によって提供される接続情報を使用して、データベースに接続するよう Discoverer に指示します。この引数により、エンド・ユーザーに対する「 接続 」ダイアログは完全に省略されます。	connect=username/password @demodb
Responsiblity=< 職責の名 前 >	Oracle General Ledger などの Oracle Application を使用するエンド・ユーザーのために、その職責を指定できます。	Responsiblity=Manager Discoverer は「 職責 」ダイアログを省略して、エンド・ユーザーにマネージャのアプリケーション職責を割り当てます。
connect=[APPS_ SECURE]<hostname_ instancename>	Oracle Application を使用するエンド・ユーザーのために、保護モードで接続されるように指定できます。 hostname_instancename は、データベースのホスト名とアプリケーション・サーバーのインスタンスを指定します。	connect=[APPS_ SECURE]genledger_payables

表 3-2 URL の引数と値

引数と値	目的	例
eul=< スキーマ名 >	エンド・ユーザーがデフォルトで接続する EUL が含まれているデータベース・スキーマの名前を指定します。この引数を使用しない場合、Discoverer は他の方法を使用してデフォルトの EUL を検出します（たとえば、エンド・ユーザー Preferences から）。	eul=VIDEOEUL Discoverer は、スキーマ VIDEOEUL の所有する EUL メタデータを使用します。
WorkbookSource=<database または scheduled>	ワークブックを開く場所を Discoverer に指定します。データベースに保存されているか、スケジュールされているかを選択します。	WorkbookSource=database Discoverer はデータベースに保存されているワークブックを検索します。
WorkbookName=< テキスト文字列 >	ユーザーがデフォルトで開くワークブックの名前を Discoverer に提供します。	WorkbookName=Video Sales Workbook Discoverer はデータベースに保存されている Video Sales Workbook というワークブックを検索します。
opendb=< ワークブック名 >	開くワークブックが（スケジュールされているものではなく）データベースに保存されていることを前提として、その名前を Discoverer に提供します。URL で opendb 引数を 2 度以上使用すると、Discoverer は最後の引数を使用します。	opendb=Video Sales Workbook Discoverer はワークブックがデータベースに保存されていると想定して、自動的にそれを開きます。
Sheet=< ワークシート名 >	ユーザーがデフォルトで開くワークシートの名前を Discoverer に提供します。URL で Sheet 引数を 2 度以上使用すると、Discoverer は最後の引数を使用します。	Sheet=Sales Detail Sheet Discoverer は Sales Detail Sheet ワークシートに対する問合せを実行し、結果をエンド・ユーザーに表示します。

表 3-2 URL の引数と値

引数と値	目的	例
param_< パラメータの 名前 >=< パラメータ値 >	パラメータが含まれるワーク ブックに対して、この引数を用 意して値を選択します。 ワークブックにその名前のパ ラメータが含まれていない場 合、Discoverer はその引数を用 意を無視します。パラメータの名 前の先頭に param_ が付くこ とに注意してください。	param_regionparam=East regionparam という名前のパラメ ータに East という値を設定するよう Discoverer に指示します。
Locale=<ISO 639 言語コー ド>_<ISO 3166 国コード >_< 可変コード >	エンド・ユーザーが Discoverer を使用するときに 表示される言語および国を選 択します。この引数により、 エンド・ユーザーのクライア ント・マシンのロケール設定 が変更されます。	Locale=es_ES 言語はスペイン語、国はスペインに 設定されます。
NLS_Lang=< 言語 _ 地域 >	エンド・ユーザーが Discoverer を使用するときに 表示される言語、地域および キャラクタ・セットを選択し ます。	NLS_Lang=Spanish_Spain
NLS_Sort=< ソートのタイ プ >	文字ソート基準を指定しま す。	NLS_Sort=XSpanish
NLS_Date_Format=< 日付 書式 >	特定の地域に対する日付の書 式を指定します。値として は、DD-MON-YY などの SQL 日付書式マスクを入力し ます。	NLS_Date_Format=DD-MON-YY
NLS_Numeric_ Characters=< 数値文字 >	数値に対する小数点文字およ びグループ・セパレータ文字 を選択します。	NLS_Numeric_Characters=.,
NLS_Date_Language=< 日 付言語 >	エンド・ユーザーが Discoverer を使用するときに 表示される曜日と月に対する 言語を選択します。	NLS_Date_Language=Spanish

表 3-2 URL の引数と値

引数と値	目的	例
BrandImage	Oracle Discoverer のロゴに置き換わる GIF ファイルの URL です。たとえば、Oracle Discoverer のロゴを自社のロゴに置き換えることができます。	BrandImage=http://.../logo.gif
ConnectImage	User Edition の「Oracle Discoverer へ接続」ダイアログ上の虫眼鏡のイメージに置き換わる GIF ファイルの URL です。	ConnectImage=http://.../logo.gif

3.4 エンド・ユーザー Preferences の編集

2.6.1 項「Discoverer サーバー Preferences の編集」の項で、Discoverer サーバーとして使用する各サーバーの IP アドレスまたはマシン名で Preferences ファイル（pref.txt）を編集しました。同じ手順で、表 3-3「Preferences ファイル内に保存されているレジストリ設定」にリストされている Preferences ファイル内の他の項目を編集します。

Preferences ファイル内の他の項目により、すべてのエンド・ユーザーに適用されるデフォルト設定が影響されます。新しいセッションが開始されると、Preference リポジトリ中の設定が有効になります。

場合によって、エンド・ユーザーは「オプション」ダイアログからこれらの設定を変更できます。個々の作業環境は、データベースおよびユーザー ID の一意の組合せとして各ユーザーごとに保存され、ユーザーが新しいセッションを開始するたびにロードされます。したがって、ユーザーが別のクライアント・マシンからログインした場合でも、個々の設定は有効です。個々のエンド・ユーザーの作業環境設定は、Windows NT レジストリ・エディタで表示できます。

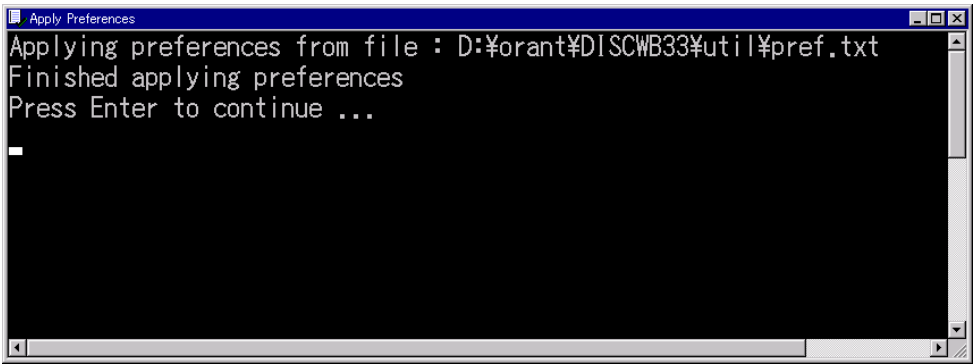
追加情報は、『Oracle Discoverer 管理ガイド』を参照してください。

注意： マシンの IP アドレスを追加するなど、Preferences の編集を行う場合、Preferences コンポーネントをシャットダウンする必要はありません。したがって、編集中でも、ユーザーは作業を継続できます。

1. Windows の「スタート」メニューから「プログラム」→「Oracle Discoverer Server 3i Setup」→「Edit Preferences」の順に選択します。
2. Pref.txt ファイルがメモ帳に表示されます。

- 3. Preferences ファイル内の項目を編集します。詳細は、表 3-3 「Preferences ファイル内に保存されているレジストリ設定」を参照してください。
- 4. ファイルを保存し、メモ帳を終了します。
- 5. Windows の「スタート」メニューから「プログラム」→「Oracle Discoverer Server 3i Setup」→「Apply Preferences」の順に選択します。

新しい作業環境が保存されたことを示す確認ウィンドウが表示されます。ファイルにエラーがあると考えられる場合は、現行のディレクトリの error.txt ファイルをチェックします。



- 6. 続行する場合は、[Enter] キーを押します。

Windows NT レジストリの Preferences が更新されます。これで Discoverer Server インスタンスの Preferences が設定されました。

Preferences ファイル内の各項目を、次の表に示します。

表 3-3 Preferences ファイル内に保存されているレジストリ設定

影響する機能	Preference アイテム・ キーの名前	説明	デフォルト / 値
ロケータ	MachineIPs	全 Discoverer サーバーのアプリケーション・サーバーの IP アドレスまたはマシン名。Preferences ファイルにおける唯一の必須項目です。	

表 3-3 Preferences ファイル内に保存されているレジストリ設定

影響する機能	Preference アイテム・ キーの名前	説明	デフォルト / 値
	DCW33_LOCATOR_JVM	オプション・キー。 HKEY_LOCAL_ MACHINE\SOFTWARE\ORACLE の下にある場合、Locator の使用する JVM が変更されます。このキーを設定すると、Locator がインストールされたマシンから Discoverer 管理者が Locator を停止することなくログオフできるようになります。	c:\winnt\jview.exe
セッション・ マネージャ	Timeout	Discoverer 3i が、アイドル・セッションをデータベースから切断するまでの時間。最小時間は 180 秒です。	1800 (秒)
	RowsPerHTML	HTML の 1 ページに表示される行数。	25 (任意の整数)
アプリケーション	CacheFlushPercentage	キャッシュがいっぱいになった場合に、フラッシュされるキャッシュの割合 (パーセント)。	25
	MaxVirtualDiskMem	データ・キャッシュに使用できるディスクの最大量。	1024000000
	MaxVirtualHeapMem	データ・キャッシュに使用できるヒープ・メモリの最大量。	1024000000
	QueryBehavior	ワークブックを開いた後で取るアクション。	0
	ShowDialogBitmaps	「User Edition」ダイアログでビットマップを表示するかどうか。	1

表 3-3 Preferences ファイル内に保存されているレジストリ設定

影響する機能	Preference アイテム・ キーの名前	説明	デフォルト / 値
	DataFormat	ワークシート内のデータ・セルに適用される HTML 書式設定。	"<fontFormat fontName="Dialog" pitch="10" bold="false" italic="false" underline="false" strikethrough="false" foreground="0,0,0" background="255, 255, 255" halign="right" valign="top">"
	HeadingFormat	ワークシート内のヘディング・セルに適用される HTML 書式設定。	"<fontFormat fontName="Dialog" pitch="10" bold="false" italic="false" underline="false" strikethrough="false" foreground="0,0,0" background="204, 204, 204" halign="left" valign="top"> </fontFormat>"
	TotalsFormat	ワークシート内の総計セルに適用される HTML 書式設定。	"<fontFormat fontName="Dialog" pitch="10" bold="false" italic="false" underline="false" strikethrough="false" foreground="0,0,0" background="255, 255, 255" halign="left" valign="top"> </fontFormat>"
	NullValue	ワークシートに NULL 値を表示する方法を、たとえば "NULL"、"N/A"、"0" などと指定する。	"NULL"

表 3-3 Preferences ファイル内に保存されているレジストリ設定

影響する機能	Preference アイテム・ キーの名前	説明	デフォルト / 値
データベース	DisableFanTrapDetection	問合せのファントラップ検出を無効にする。	0 (0 = オン、1 = オフ)
	DisableMultiJoinDetection	複数結合検出を無効にする。	1 (0 = オン、1 = オフ)
	DisableAutoQuery	0 に設定した場合、ワークシートが開かれたときに問合せは自動的に実行されない。	0 (0 = オン、1 = オフ)
	ItemClassDelay	値リストを取り出す時間の上限値。	15 (秒)
	PredictionThresholdSeconds	問合せ予測時間が設定された秒数を超過する場合、ユーザーに警告する。	60 (秒)
	PredictionThresholdSecondsEnabled	問合せ予測しきい値を無効 (0) または有効 (1) にする。	1
	QueryTimeLimit	問合せ時間の上限を秒で示す。	1800 (秒)
	QueryTimeLimitEnabled	問合せ時間の制限を無効 (0) または有効 (1) にする。	1
	RowFetchLimit	取り出す行数の最大値。	10000 (行)
	RowFetchLimitEnabled	RowFetchLimit パラメータを無効 (0) または有効 (1) にする。	1
	RowsPerFetch	1 度に取り出す行数。	100 (行)
	SummaryThreshold	サマリー表がこの日数以内に更新されている場合にのみ、サマリー表を使用する。	30 (日) 0 の場合はサマリーを使用しない。
	SummaryThresholdEnabled	有効 (1) にすると、SummaryThreshold で指定した値が使用される。そうでない場合、Discoverer はできる限りサマリー表を使用する。	1

表 3-3 Preferences ファイル内に保存されているレジストリ設定

影響する機能	Preference アイテム・ キーの名前	説明	デフォルト / 値
	DefaultEUL	すべてのユーザーが接続する EUL を設定する。各ユーザーは、「オプション」ダイアログからこのデフォルトを変更できる。	作成した任意の EUL
Oracle Applications モード	AppsGWYUID	AOL セキュリティ dll のパブリック・ユーザー名およびパブリック・パスワードを指定する。	"APPLSYSPUB/PUB"
	AppsFNDNAM	Oracle Applications のデータを格納するときのスキーマを指定する。	"APPS"
	ShowUserTypeChoice	Oracle Applications に対して Discoverer を実行するかどうかを指定するエンド・ユーザー・チェックボックスを有効にする。	1
	DefaultUserTypeIsApps	ユーザーがデフォルトで Oracle Applications に対して Discoverer を実行するように指定する。	1
内部設定	BusinessAreaFastFetchLevel	ビジネス・エリアを取り出す際にキャッシュするコンポーネントやアイテムの量をレベルで指定する。	1
	ObjectsAlwaysAccessible	ビジネス・エリア上のオブジェクトおよびアイテムが、データベースに存在するかどうかを検証する。	0 (0= 検証する。1= オブジェクトおよびアイテムが存在するものと想定し、検証を行わない。)
	SummaryObjectsUseCached Accessibility	キャッシュ内のサマリー導出オブジェクトにアクセスするかどうかを指定する。	0
	AvoidServerWildcardBug	NLS_LANG を Japanese_Japan.JA16SJIS に設定した RDBMS 7.3.2 の場合、特定のリスト・ボックスが空白で表示されないようにするには、この値を 1 に設定する。	0

表 3-3 Preferences ファイル内に保存されているレジストリ設定

影響する機能	Preference アイテム・ キーの名前	説明	デフォルト / 値
	RdbFastSQLOff		0
問合せ予測と パフォーマンス 統計	QPPEnable	1 に設定した場合、問合せ予 測 / パフォーマンス統計 (QPP) を使用する。	1 (0= 偽、1= 真)
	QPPCreateNewStats	1 に設定すると、新規の統計 が記録される。	1 (0= 偽、1= 真)
	QPPLoadStatsByObjectUse Key	1 に設定すると、同じオブ ジェクトの統計が最初に記 録される。	1 (0= 偽、1= 真)
	QPPUseCpuTime	アルゴリズム内で CPU 時間 を使用して問合せ予測する。	1 (0= 偽、1= 真)
	QPPAvgCostTimeAlgorithm		2
	QPPMaxObjectUseKey	問合せ予測用にメモリーに キャッシュする統計量を決 定する。	30
	QPPCBOEnforced	1 に設定すると、コスト・ ベース・オプティマイザが 使用される。0 に設定する と、デフォルトのオプティ マイザが使用される。	1
	QPPObtainCostMethod		1
	QPPMinCost	この値より大きいコストの 統計のみが記録または使用 される。	h
	QPPMaxStats	設定値の数のみ、以前の統 計がロードされる。	500
	QPPMinActCpuTime	この値より大きい CPU 時間 の統計のみが記録または使 用される。	0
	QPPMinActElapsedTime	この値より大きい実行時間 の統計のみが記録または使 用される。	0
	QPPMinEstElapsedTime	この値より大きい予想経過 時間の統計のみが記録また は使用される。	0

表 3-3 Preferences ファイル内に保存されているレジストリ設定

影響する機能	Preference アイテム・ キーの名前	説明	デフォルト / 値
クロス集計 レイアウト	UseOptimizerHints	1 に設定すると、オブティマイザ・ヒントが SQL に追加される。	0
	QuerySQLFastFetchLevel		1
	SQLTrace		0
	Title	Discoverer 3.1 のワークシートで作成されたタイトルを表示する。	1 (0 = いいえ、 1 = はい)
	Cell XGridline	水平罫線を表示する。	0 (0 = いいえ、 1 = はい)
	Cell YGridline	垂直罫線を表示する。	0 (0 = いいえ、 1 = はい)
テーブル・レイ アウト	Axis Style	クロス集計の軸の位置。	2 (1 = インライン、 2 = アウトライン)
	Title	Discoverer 3.1 のワークシートで作成されたタイトルを表示する。	1 (0 = いいえ、 1 = はい)
	Cell XGridline	水平罫線を表示する。	0 (0 = いいえ、 1 = はい)
	Cell YGridline	垂直罫線を表示する。	0 (0 = いいえ、 1 = はい)
	Row Headings	テーブル・レイアウトのワークシート上に行数が表示される。	0 (0 = いいえ、 1 = はい)

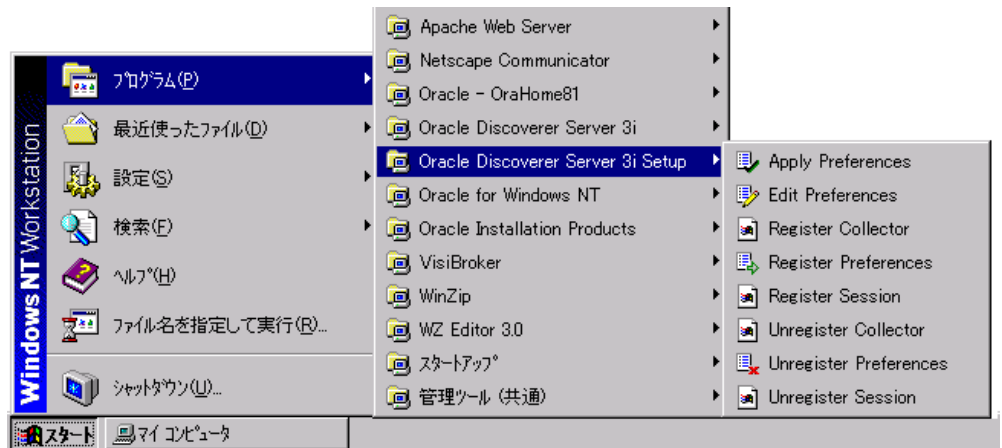
3.5 コンポーネントの登録および登録解除

コンポーネントの登録および登録解除を行うには、そのマシンで VisiBroker OAD を実行しておく必要があります。コンポーネントの登録および登録解除は、Discoverer Server とともにインストールされた、Windows の「スタート」メニューの「プログラム」グループ・メニューを使用して行うか、コマンドラインを使用して行います。

3.5.1 Windows のプログラム・グループからの登録および登録解除

コンポーネントの登録または登録解除を行うマシン上で、次の操作を実行します。

1. Windows の「スタート」メニューから「プログラム」→「Oracle Discoverer Server 3i Setup」の順に選択します。



2. 登録または登録解除するコンポーネントを選択します。
確認画面が表示されます。Preferences の登録確認の例を次に示します。

3.5.2 コマンドラインからの登録および登録解除

Windows の「スタート」メニューの「ファイル名を指定して実行」ダイアログ・ボックスを使用します。コンポーネントの登録にはバッチ・スクリプトが使用できます。このバッチ・スクリプトは、コンポーネントがインストールされたマシンの <ORACLE_HOME>\%Discwb33\util ディレクトリにあります。

3.5.2.1 Preferences および Session の OAD への登録

Preferences および Session コンポーネントは、OAD に登録する必要があります。OAD では、クライアントの接続が行われるたびに新規セッションを開始します。OAD への Preferences および Session コンポーネントの登録に役立つスクリプトが用意されています。

スクリプト名は次のとおりです。

- registerSession.bat
- registerPreferences.bat

次の例の <Prefix> は、一意のインスタンス名を意味します。

コマンドラインから Session を登録するには、次のようにします。

1. MS-DOS ウィンドウを開きます。
2. ディレクトリを、<ORACLE_HOME>%Discwb33%util に変更します。
3. 次のように入力します。

```
>registerSession.bat
```

コマンドラインから Preferences を登録するには、次のようにします。

1. MS-DOS ウィンドウを開きます。
2. ディレクトリを、<ORACLE_HOME>%Discwb33%util に変更します。
3. 次のように入力します。

```
>registerPreferences.bat
```

3.5.2.2 OAD からのコンポーネントの登録解除

OAD から、Preferences および Session コンポーネントを登録解除できます。

3.5.2.2.1 Preferences コンポーネントの登録解除 OAD から、Preferences コンポーネントを登録解除するのに便利なスクリプトがあります。

OAD から Preferences コンポーネントを登録解除するには、次のようにします。

1. MS-DOS ウィンドウを開きます。
2. ディレクトリを、<ORACLE_HOME>%Discwb33%util に変更します。
3. 次のように入力します。

```
>unRegisterPreferences.bat
```

3.5.2.2.2 Session コンポーネントの登録解除 OAD から、Session コンポーネントを登録解除するのに便利なスクリプトがあります。

OAD から Session コンポーネントを登録解除するには、次のようにします。

1. MS-DOS ウィンドウを開きます。
2. ディレクトリを、<ORACLE_HOME>%Discwb33%util に変更します。

3. 次のように入力します。

```
>unRegisterSession.bat
```

3.6 シャットダウン

メンテナンス、ハードウェアの設定変更またはその他の作業を行う場合は、サーバー・マシンをオフラインにしてください。これにより、メンテナンス作業中に、ユーザーがそのサーバーでセッションを開始してしまうことを防ぐことができます。Discoverer サーバーをシャットダウンする方法には、次の 2 通りがあります。

- 個々のサーバー・マシンをシャットダウンします。
- Discoverer 3i システム全体をシャットダウンします。

注意： Discoverer Preferences を編集する場合は、シャットダウンする必要はありません。

シャットダウンするマシンで Discoverer Locator または Preferences が実行されている場合は、Discoverer 3i システム全体をシャットダウンする必要があります。どのサーバーで Session コンポーネントがオンになっているかにかかわらず、これらのコンポーネントはセッションの作成時に使用されます。したがって、これらのコンポーネントのどちらかが停止してしまうと、Discoverer 3i システム全体に影響します。

3.6.1 個々のサーバーのシャットダウン

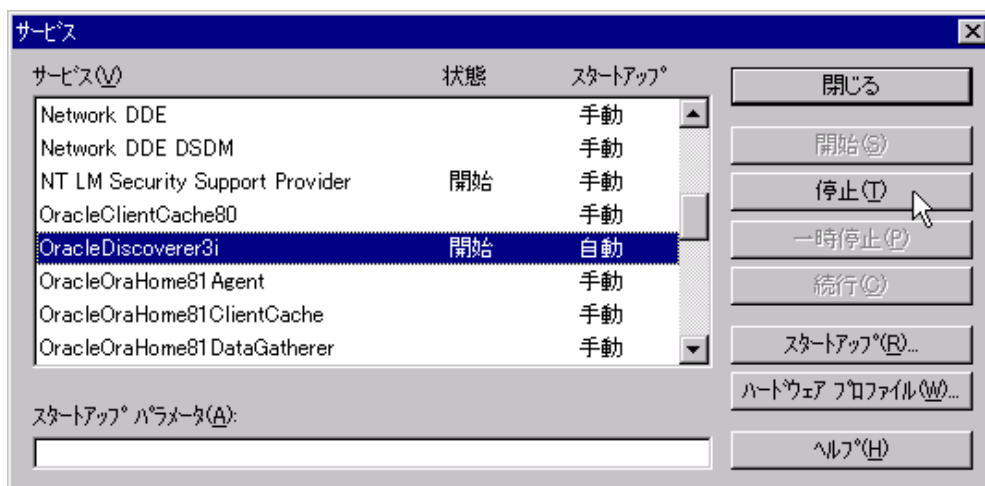
サーバーをシャットダウンする方法は次の 2 通りです。つまり、準備ができたカレント・ユーザーから段階的に切断していくか、またはカレント・ユーザーの Discoverer 3i セッションをただちに強制終了させるかのいずれかです。

3.6.1.1 個々のサーバーの段階的シャットダウン

サーバーを段階的にシャットダウンすると、Discoverer 3i セッション中のユーザーを中断せずに、新規セッションの開始を止めることができます。

1. シャットダウンするマシン上で、Windows の「スタート」メニューから「設定」→「コントロール パネル」の順に選択し、次に「サービス」アイコンをダブルクリックします。

「サービス」ダイアログ・ボックスが表示されます。



2. 「OracleDiscoverer3i」サービスを選択し、「停止」ボタンをクリックします。

サービスが CORBA サービスと Locator コンポーネントを停止し、このマシン上での新規セッションの開始を防ぎます。実行中のセッションは、サービスがシャットダウンされても影響を受けません。したがって、作業中のユーザーが作業を中断されることはありません。

カレント・ユーザー全員が、セッションから切断されると、メンテナンス作業が可能になります。コンポーネントの登録または登録解除する場合は、まず「OracleDiscoverer3i」サービスを再起動する必要があります。
ユーザー全員が切断したかチェックするには、Windows のタスク・マネージャを開き、Session 実行可能ファイル (**dis33ws.exe**) のインスタンスがいずれも実行中でないことを確かめます。

3.6.1.2 個々のサーバーの即時シャットダウン

即時シャットダウンでは、新規ユーザー・セッションが開始できなくなる他、現行のセッションも停止されます。即時シャットダウンを行うには、マシンの

「OracleDiscoverer3i」サービスを停止した後（これにより新規セッションが開始されなくなります）、現在実行中のセッションを停止します。

1. シャットダウンするマシン上で、Windows の「スタート」メニューから「設定」→「コントロール パネル」の順に選択し、次に「サービス」アイコンをダブルクリックします。

「サービス」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2. 「OracleDiscoverer3i」サービスを選択し、「停止」ボタンをクリックします。
3. [Ctrl] と [Alt] を押しながら [Del] を押し、Windows のタスク・マネージャを開きます。
4. dis33ws.exe を選択します。
5. 「プロセスの終了」をクリックします。
6. タスク・マネージャで実行されているすべてのセッション（dis33ws.exe）に対し、ステップ 3 および 4 を繰り返します。

3.6.2 Discoverer 3i システム全体のシャットダウン

Discoverer 3i システム全体をシャットダウンする場合は、個々のマシンを特定の順序でシャットダウンしていきます。

Discoverer 3i システムをシャットダウンする方法は、次の 2 通りです。つまり、準備ができたカレント・ユーザーから段階的に切断していくか、またはカレント・ユーザーの Discoverer セッションをただちに強制終了させるかのいずれかです。

3.6.2.1 Discoverer 3i システムの段階的シャットダウン

Discoverer 3i システムを段階的にシャットダウンすると、カレント・ユーザーのセッションを継続させた上で、新規セッションの開始を防ぐことができます。

段階的にシャットダウンする場合は、各サーバーの Oracle Discoverer NT サービスを停止した後、ユーザーにセッションを終了させます。

1. 各サーバーで、Windows の「スタート」メニューから「設定」→「コントロール パネル」の順に選択し、「サービス」アイコンをダブルクリックします。
2. 「OracleDiscoverer3i」サービスを選択し、「停止」ボタンをクリックします。

サービスによって開始されたすべてのサーバー・コンポーネントが、サービスによって停止されます。稼働しているマシンに応じて、サービスが CORBA サービスと Locator コンポーネントを停止します。Locator がマシン上で作動している場合は、サービスが停止するため新たなユーザーはログインできません。

実行中のセッションは、サービスがシャットダウンされても影響を受けません。したがって、作業中のユーザーが作業を中断されることはありません。

3. [Ctrl] と [Alt] を押しながら [Delete] を押し、Windows のタスク・マネージャを開きます。

警告： すべてのセッションが停止するまで、Preferences はシャットダウンしないでください。セッションがアクティブである間に Preferences をシャットダウンすると、アクティブなセッションに問題が発生する可能性があります。

4. dis33pr.exe を選択して「プロセスの終了」をクリックし、Preferences をシャットダウンします。

現行のユーザー全員のセッションが完了すると、Discoverer サーバーがシャットダウンされます。

3.6.2.2 Discoverer 3i システムの即時シャットダウン

Discoverer サーバーの即時シャットダウンを行うと、新規ユーザー・セッションの開始が停止される他、すべての現行のセッションが停止されます。

1. 各サーバーで、Windows の「スタート」メニューから「設定」→「コントロール パネル」の順に選択し、「サービス」アイコンをダブルクリックします。
2. 「OracleDiscoverer3i」サービスを選択し、「停止」ボタンをクリックします。

現行のセッションが実行されている各マシンで、次の操作を行います。

3. [Ctrl] + [Alt] + [Del] を押し、Windows のタスク・マネージャを開きます。
4. dis33ws.exe を選択します。
5. 「プロセスの終了」をクリックします。
6. タスク・マネージャで実行されている各セッション（dis33ws.exe）および Preferences（dis33pr.exe）に対して、ステップ 3 および 4 を繰り返します。

3.7 サーバーの追加および削除

Discoverer 3i 構成におけるサーバー・マシンの追加および削除は、いつでも容易に実行可能です。

3.7.1 サーバーの追加

Discoverer 3i をインストールしたときと同様に、該当するソフトウェアを新規サーバーにインストールした後に、そのサーバーを起動する必要があります。

2.3.1.3 項「[他のマシンへの Discoverer サーバー・コンポーネントのインストール](#)」の説明に従ってください。Preferences コンポーネントをインストールしたサーバーの Prefs.txt ファイルに、新規サーバーの IP アドレスまたはマシン名を追加します。

3.7.2 サーバーの完全な削除

Discoverer NT サービスを無効にするか「起動」を手動に変更すると、マシンが Discoverer 3i ネットワークから削除されます。ソフトウェアを削除する必要はありません。ただし、サーバーの IP アドレスを Prefs.txt ファイルから削除するためには、Prefs.txt ファイルを編集する必要があります。Prefs.txt ファイルの編集の詳細は、2.6.1 項「[Discoverer サーバー Preferences の編集](#)」を参照してください。

1. Windows の「スタート」メニューから「プログラム」→「Oracle Discoverer Server 3i Setup」→「Edit Preferences」の順に選択します。
Prefs.txt ファイルがメモ帳で開かれます。
2. Preferences ファイルから、マシンの IP アドレスを削除します。Preferences ファイルを保存して、メモ帳を閉じます。
3. 「スタート」→「プログラム」→「Oracle Discoverer Server 3i Setup」→「Apply Preferences」の順に選択します。
4. Windows の「スタート」メニューから、「プログラム」→「Oracle Discoverer Server 3i Setup」の順に再度選択し、登録解除するサーバー上のコンポーネントを選択します。
たとえば、Session コンポーネントを登録解除する場合は、「Unregister Session」を選択します。
5. 登録解除する各コンポーネントごとに前述の作業を繰り返します。
6. Windows の「スタート」メニューから「設定」→「コントロール パネル」の順に選択し、「サービス」アイコンをダブルクリックします。
「サービス」ダイアログ・ボックスが表示されます。



7. 「OracleDiscoverer3i」サービスを選択し、「スタートアップ」ボタンをクリックします。
「サービス」ダイアログ・ボックスが表示されます。
8. 「サービス」ダイアログ・ボックスの「スタートアップの種類」セクションで、「手動」または「無効」をクリックします。「OK」をクリックします。

これでこのサーバーは、Discoverer NT サービスを自動的に起動しなくなり、したがって Discoverer 3i 構成の一部ではなくなります。

注意： 一時的にサーバーを削除する場合は、Discoverer NT サービスをシャットダウンします。

3.8 他のマシンでの Locator の実行方法

Locator は、HTTP サーバー以外のマシンでも実行できます。この構成は、HTTP マシンが、Windows NT 4.0 マシンでも Solaris マシンでもない場合に便利です。Locator を他のマシンで実行する際に重要なのは「locator.ior」ファイルです。

Locator を起動すると、locator.ior ファイルが生成されます。このファイルは、VisiBroker コンポーネント（OAD および SmartAgent）が、Locator を検索する際に使用します。したがって、他のマシンで Locator を実行するには、Discoverer Server の現行のディレクトリにある locator.ior ファイルを、アプレットが存在している HTTP サーバーの Discover 3i のディレクトリにコピーします。この場合、Locator は最初の実行されます。

1. Oracle Installer を使用して、[2.3.3 項「カスタム・インストール」](#)に説明されているように Locator を Windows NT 4.0 マシンにカスタム・インストールします。Locator コンポーネントは <ORACLE_HOME>%discwb33%util ディレクトリにインストールされます。
2. Locator をインストールしたマシンを再起動します。再起動すると、Oracle Discoverer Server 3i が起動され、Locator が自動的に起動されます。

Locator を起動すると、locator.ior ファイルがこのディレクトリに生成されます。

3. locator.ior ファイルを、HTTP サーバーの <root or virtual path>/Discwb33/applet ディレクトリにコピーします。

HTTP サーバーとして使用しないサーバー上では、再起動して Locator を起動するたびに、更新された locator.ior ファイルを HTTP サーバーにコピーする必要がありますので注意してください。

3.9 よくある質問

どのような環境変数が設定されますか？

Discoverer Server をインストールすると、VisiBroker 製品用として次の 2 つの環境変数が設定されます。

```
VBROKER_JVM = <ORACLE_HOME>%jsf11728o%bin%jre.exe
VBROKER_TAG = -D
```

Discoverer Server では CLASSPATH は変更されません。PATH 変数は次のように更新されます。

```
PATH = $ORACLE_HOME%bin;$ORACLE_HOME%vbroker%bin;%PATH%
```

これにより、他の製品との競合の可能性が最小限になります。

Locator オブジェクトまたは Preferences コンポーネントが停止するとどうなりますか？

Locator がダウンすると、再起動するまで、新規ユーザーはシステムにログインできなくなります。既存のセッションは影響を受けません。

Locator は、Preferences を編集する場合でも、シャットダウンする必要があるように設計されています。デフォルトでは、Locator は次のクライアントが接続された場合に、編集済みの値を使用します。

これと同様に、Preferences がダウンした場合でも Locator は引き続き機能し、すでに実行中のセッションは影響を受けません。Preferences が再起動すると、Locator は再び Preferences にバインドされます。

サーバーの停止中に何が起こりますか？

マシンの IP アドレスまたはマシン名が pref.txt ファイルに含まれている状態で、マシンが起動していない場合、または Locator がマシンで新規セッションを開始できない場合、Locator は Preferences ファイル内の IP アドレス（またはマシン名）のリスト上の次のマシンを自動的に検出します。Locator は次のマシンで新規セッションを開始します。セッションが開始しなくなるのは、リスト上のすべてのマシンに障害が発生したときのみです。

リスト上のすべてのマシンに障害が発生した場合、Locator はブロードキャストを行って、サブネット内のいずれかのマシンがセッションを開始できないかを確認します。それも失敗した場合は、Locator は機能しません。

ネットワーク・エラーが発生した場合にはどうしますか？

ログイン時に Discoverer 3i でネットワーク例外が発生した場合、最も可能性の高いのはサーバーの問題です。次の項目をチェックしてください。

- CLASSPATH または PATH の内部に、Discoverer 3i を妨害していると考えられるディレクトリまたは jar ファイルが存在していませんか？ Discoverer 3i では、VisiBroker CORBA V3.2 および JDK 1.2 が使用されます。
- Locator が起動していることを確かめます。locator.log ファイルにエラー・メッセージが表示されていませんか？ locator.ior ファイルが DiscWb33¥applet ディレクトリにあることを確かめます。
- VisiBroker SmartAgent および OAD が起動しており、新規セッションを開始できることを確かめます。
- Preferences コンポーネントが起動していることを確かめます。Preferences コンポーネントが起動していることを確認するには、Windows のタスク・マネージャを使用して、Dis33pr.exe が実行されているかどうか確かめます。

「ORA-12154 TNS : サービス名を解決できませんでした。」と表示された場合には何を行いますか？

これは Oracle のエラーの 1 つで、接続フィールドに指定されたデータベースの別名に、Session が接続できないときに表示されます。次の項目をチェックしてください。

- データベースの別名が、tnsnames.ora ファイルに存在しますか。
- データベースの別名が、セッションを実行する各マシンの tnsnames.ora ファイルに存在していますか。

ヒント： SQL*Plus または他の Oracle 製品をそのマシンで実行している場合は、それらを使用してデータベースに接続してみてください。

JInitiator で JRE (Java Runtime Environment) の別バージョンを使用するにはどのようにすればよいですか？

1. Windows の「スタート」メニューから「プログラム」→「Oracle JInitiator Control Panel」の順に選択します。
2. 「Advanced」タブをクリックします。
3. 「Java Runtime Environment」で「Other」を選択します。
4. 他の JRE のパスを入力します。
5. 「JInitiator Control Panel」を閉じます。

スクリーンの下の方に「警告アプレット・ウィンドウ (Warning Applet Window)」が表示されますが、これは何を意味します？

この警告ウィンドウは、ブラウザが JAR ファイル (Oracle JInitiator をインストールした Netscape Navigator の場合) または Cabinet (CAB) ファイルを検索できなかったことを示しています。つまり、アプレットが署名済み JAR ファイルまたは CAB ファイルを検索することができず、結果としてユーザーに権限が付与されなかったことを意味します。この場合、Discoverer 3i は、別のマシンで作動中のサーバーに接続できず、正しく機能しません。次の項目をチェックしてください。

- CAB ファイルおよび JAR ファイルが、HTTP サーバーの正しいディレクトリに存在していますか。
- start.html という HTML ファイルがこれらのファイルを正しく参照していますか。

Microsoft Internet Explorer では、署名済み CAB ファイルに対する権限を付与するようユーザーに要求することに注意してください。

Locator が Preferences にバインドできないというメッセージが表示された場合はどうしますか？

Locator が Preferences にバインドできない場合は、次の項目をチェックしてください。

- Preferences コンポーネントが起動していますか？ Windows のタスク・マネージャを使用して Preferences コンポーネントが起動していることを確認します。Preferences コンポーネントを再起動する場合は、[3.1 項「Discoverer サービスの使用」](#)を参照してください。

- サブネット上で SmartAgent が実行されていますか？ MS-DOS ウィンドウを開き、コマンドラインで `osfind` と入力し、サブネット上で実行されているエージェント、OAD およびその他の登録済みコンポーネントのリストを確認します。エージェントはリストの最初に表示されていることに注意してください。SmartAgent が実行されていない場合は、それを起動するために 3.1 項「[Discoverer サービスの使用](#)」を参照してください。
- Preferences コンポーネントはインストールされていませんか？ Preferences コンポーネントが起動されていることを確認するには、Windows のタスク・マネージャを使用して、`Dis33pr.exe` が実行されていることを確かめてください。
- Preferences は OAD に登録されていますか？ Preferences が登録されていることを確認する場合は、3.2 項「[登録された Discoverer サーバー・コンポーネントの表示](#)」を参照してください。これは、Preferences コンポーネントがインストールされているマシンで行う必要があります。Preferences コンポーネントが登録されていない場合は、3.5.2.1 項「[Preferences および Session の OAD への登録](#)」を参照してください。
- Preferences マシンは Locator マシンおよび Session マシンと同じサブネット上にありますか？ MS-DOS ウィンドウを開き、コマンドラインで `osfind` と入力し、サブネット上で実行されているエージェント、OAD およびその他の登録済みコンポーネントのリストを確認してください。エージェントはリストの最初に表示されていることに注意してください。Preferences コンポーネントは、同じサブネット上にインストールする必要があります。
- Preferences ファイルは破損していませんか？ 破損されていることをファイルから直接確認することはできません。ファイルをチェックする場合は、コピーを保存した後に Preferences を削除し、デフォルトを使用してセッションを実行します。デフォルトの Preferences でセッションが正しく実行された場合は、Preferences ファイルが破損している可能性があります。

Prefs.txt ファイルが破損していることを確認するには、次の手順を実行します。

1. pref.txt ファイルのコピーを保存します。
2. 元の pref.txt ファイルを削除します。
3. Windows の「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行」→「Regedit」の順に選択します。
4. 次の場所でレジストリ・キーを検索します。
`HKEY_CURRENT_USER¥software¥oracle¥WebDisco 3i`
Discoverer バージョン 3.3 では、キーは `HKEY_LOCAL_MACHINE` にあります。
5. 検索したレジストリ・キーを削除します。
6. ファイル "`<ORACLE_HOME>¥DISCWB33¥util¥defaults.txt`" を "prefs.txt" としてコピーします。
7. 「スタート」→「プログラム」→「Oracle Discoverer Server 3i Setup」→「Apply Preferences」の順に選択します。

8. Discoverer セッションを実行します。セッションが正しく実行された場合は、元の prefs.txt ファイルが破損している可能性があります。
9. セッションを終了します。
10. 元の prefs.txt ファイルには破損した要素が含まれている可能性があるため、保存済みのコピーを削除します。
11. 3.4 項「[エンド・ユーザー Preferences の編集](#)」に説明に従ってユーザー設定項目
ユーザー設定項目、Preferences を再設定します。

Oracle Applications での Discoverer 3i の使用

Discoverer 3i では、Oracle Applications の作業を透過的に実行するための追加機能が提供されます。エンド・ユーザーが Oracle Applications に対して問合せを行う場合は、Discoverer 3i が追加の制御機能を提供します。たとえば、Oracle Applications ユーザーのために Discoverer 3i を自動的に起動する、URL 内で使用可能な引数があります。さらに、エンド・ユーザーが多くのログイン・プロシージャを自動化するために使用できる、新しい NT レジストリ設定があります。

A-1 Oracle Applications エンド・ユーザーのための URL 引数

エンド・ユーザーがログインし、ワークブックを選択した後、パラメータ値を選択するかわりに、エンド・ユーザーのために Discoverer アプレットを簡単に起動する URL を作成することができます。アプレットの起動の他に、必要な設定を明示的に指定できます。たとえば、開くワークブックや使用するパラメータ値を指定することができます。さらに、この同じ URL にエンド・ユーザーのアプリケーション職責を指定できます。

このような URL を作成した後で、Web ブラウザに入力できるようにその URL をエンド・ユーザーに提供できます。あるいは、エンド・ユーザーが Discoverer をシングル・クリックで起動できるように、URL をリンクとして企業のイントラネット・サイトに追加することもできます。URL を使用して Discoverer を自動的に起動すると、エンド・ユーザーの時間が節約できるだけではなく、エンド・ユーザーが使用するワークブックの制御も可能になります。

職責 URL 引数とその構文を次の表に示します。職責引数は、Oracle Applications エンド・ユーザーにアプリケーション職責を自動的に割り当てます。使用できるすべての URL 引数の詳細および URL を作成する手順は、[3.3 項「Discoverer を自動的に起動するための URL」](#)を参照してください。

表 A-1 職責引数と可能な値

引数と値	目的	例
Responsibility = < 職責の名前 >	Oracle General Ledger などの Oracle Application を使用するエンド・ユーザーのために、その職責を指定できます。	Responsibility=Manager Discoverer は「 職責 」ダイアログを省略して、エンド・ユーザーにマネージャのアプリケーション職責を割り当てます。

A-2 Oracle Applications ユーザーのための NT レジストリ設定

2.6.1 項「Discoverer サーバー Preferences の編集」の項で、Discoverer サーバーとして使用する各サーバーの IP アドレスまたはマシン名で Preferences ファイル（pref.txt）を編集しました。同じ手順で、表 2「Preferences 内に保存されているレジストリ設定」にリスト表示されている Preferences ファイル内の他の項目を編集します。Preferences ファイル内の他の項目では、すべてのエンド・ユーザーに適用されるデフォルト設定を変更できます。新しいセッションが開始されると、Preference リポジトリ中の設定が有効になります。個々のエンド・ユーザーの作業環境設定は、Windows NT レジストリ・エディタで表示できます。

Oracle Applications エンド・ユーザーの場合、特別な 4 つの NT レジストリ設定が使用できます。これらの NT レジストリ設定を次の表に示します。すべての NT レジストリ設定を使用する方法の詳細は、3.4 項「エンド・ユーザー Preferences の編集」を参照してください。

表 A-2 Preferences 内に保存されているレジストリ設定

Preference アイテム・ キーの名前	説明	デフォルト / 値
AppsGWYUID	AOL セキュリティ dll のパブリック・ユーザー名およびパブリック・パスワードを指定する。	"APPLSYSPUB/ PUB"
AppsFNDNAM	Oracle Applications のデータを格納する際のスキーマを指定する。	"APPS"
ShowUserTypeChoice	Discoverer を Oracle Application に対して実行するかどうかを指定するエンド・ユーザー・チェックボックスをアクティブにする。	1
DefaultUserTypeIsApps	ユーザーがデフォルトで Oracle Application に対して Discoverer を実行するように指定する。	1

用語集

EUL (End User Layer)

Oracle Discoverer が、基礎となるデータベースの複雑度やディテールを非表示にするために使用する情報のレイヤー。EUL では、特定のビジネスエリアを反映するようにデータが編成されるため、容易かつ迅速に問合せを行うことができます。同一のデータを複数のビジネス状況のために使用することもできます。End User Layer は、Discoverer Administrator Edition を使用して定義されます。

HTTP サーバー (HTTP Server)

HTTP サーバーとは、HTTP サーバー・ソフトウェアを実行するマシンであり、Discoverer HTML ファイルおよびアプレット・ファイルもここにインストールします。Discoverer を Web ブラウザから起動する場合、ユーザーは HTTP サーバー・オブジェクトとコンタクトします。インストールする HTTP サーバーの数は、Discoverer のインスタンス 1 つにつき 1 台のみです。

Locator

Locator は、Session コンポーネントとコンタクトするコンポーネントです。その目的は、クライアントからのセッション要求を受けること、新規セッションを開始すること、および新規セッションへの参照情報をクライアントに戻すことです。クライアントは、この参照情報を受信した後は、セッションと直接通信を行います。Locator は次の要求を待ちます。インストールする Locator の数は、ひとつの Discoverer インスタンスにつき 1 つです。

Locator には、インストール済みのどの Session コンポーネントが要求されたセッションを担当するかを決定する機能があるため、ロード・バランシング（負荷均衡）・デバイスとしての役割も果たします。

Preferences

Preferences コンポーネントにより、すべてのオブジェクト（Locator、Session）の設定を、1 つの場所で行うことができます。さまざまなオブジェクトがさまざまなマシンで実行できる分散環境では、環境設定の場所を 1 つにしておくことが重要です。Preferences コンポー

ネットは、オブジェクトが実行される場所を問わず、全オブジェクトに対して一貫性のある作業環境設定を行います。

Session

Session コンポーネントは、クライアントとデータベースとの間のリンクを提供するエンジンです。Session は、データベースへの接続や、ワークブックを開くといった作業を、ユーザーが実行できるようにするためのすべてのビジネス・ロジックを備えています。

必要な台数のアプリケーション・サーバーに Session コンポーネントをインストールできます。複数のサーバーにインストールすることでパフォーマンスが向上します。

Session コンポーネントは、Discoverer 構成内の任意の Windows NT（アプリケーションまたは HTTP）サーバー上で実行可能です。

アプリケーション・サーバー (Application Server)

アプリケーション・サーバーには、Session コンポーネントをインストールします。Session コンポーネントを 3 つのマシンにインストールした場合、それぞれのマシンがアプリケーション・サーバーとなります。

Preferences コンポーネントは、アプリケーション・サーバーのいずれか 1 つにインストールする必要があります。

ワークブック (Workbook)

ワークブックは、ワークシートの集合です。ワークシートは、問合せで見つけたデータを後で分析するために使用する、事前定義済みのデータとその関係データのセットです。

索引

A

Applications、Oracle

- NT レジストリ設定, 3-18
- URL で使用する引数, 3-10, A-2

C

CORBA

- Discoverer サーバーによって使用されるコンポーネント, 1-3
- NT サービスによるコンポーネントの起動, 3-1

D

Discoverer, 2-7

Discoverer 3i

- NT サービス, 3-1
- NT レジストリ設定, 3-14, A-2
- Oracle Applications ユーザーのための NT レジストリ設定, 3-18
- URL で使用する引数, 3-9
- URL での起動, 3-7
- アーキテクチャ, 1-1
- インストール概要, 2-1
- 概要, 1-1
- 社内 web ページからのリンク設定, 2-52
- 動作の仕組み, 1-7
- メンテナンス, 3-1

Discoverer 3i に対するレジストリ設定, 3-14, A-2

Discoverer 3i のインストール

- インストールの前に, 2-7

Discoverer 3i の概要, 1-1

Discoverer 3i のための NT サービス, 3-1

Discoverer 3i のメモリー要件, 2-1

Discoverer 3i のメンテナンス、概要, 3-1

Discoverer 3i をインストールする

- Solaris への HTTP サーバーのインストール, 2-21
- VisiBroker コンポーネントのために設定される環境変数, 3-28

Windows NT への HTTP サーバーのインストール, 2-7

Windows NT へのマスター・サーバーのインストール, 2-13

概要, 2-1

カスタム・インストール, 2-37

作成されるディレクトリ, 2-41

実行可能ファイル, 2-42

シングル・マシンへの, 2-32

他のオペレーティング・システムへの HTTP サーバーのインストール, 2-27

必要なシステム・ソフトウェア, 2-3, A-2

複数のマシンへの分散インストール, 2-7

Discoverer アプレット

Solaris へのインストール, 2-23

インストール場所, 2-4

概要, 1-3

Discoverer サーバー

Preferences コンポーネントの編集, 2-47

概要, 1-3

構成, 2-4

コンポーネントの構成, 2-46

コンポーネントの削除, 2-42

シャットダウン, 3-23

ソフトウェア・コンポーネント, 1-3

登録済みコンポーネントの表示, 3-4

ハードウェア・コンポーネント, 1-5

負荷均衡, 2-47

Discoverer サーバー Preferences の編集, 2-47

Discoverer サーバー・コンポーネントの構成, 2-46

Discoverer サーバー・コンポーネントの削除, 2-42
Discoverer サーバーのアーキテクチャに使用される
ハードウェア, 1-5
Discoverer サーバーの構成, 2-4
Discoverer サーバーのコンポーネント, 1-3
Discoverer サーバーのシャットダウン, 3-23
Discoverer サーバーの構成
サーバーの追加および削除, 3-26
Discoverer 用 Java アプレット、概要, 1-3
Discoverer を自動的に起動するための URL, 3-7

E

End User Layer、定義、用語集 -1

H

HTTP サーバー
NT 以外または Solaris 以外のオペレーティング・
システムへのインストール, 2-27
インストール時に作成されるディレクトリ, 2-41
概要, 1-5
定義、用語集 -1
HTTP サーバー、サポートされているタイプ, 2-3

I

identitydb.obj ファイル
JInitiator による使用, 2-53
Solaris での, 2-32
IP アドレス
Preferences への追加, 2-47
サーバーの停止中に何が起こるか, 3-29

J

Java Runtime Environment、Solaris へのインス
トール, 2-22
Java アプレット
Solaris へのインストール, 2-23
インストール場所, 2-4
JInitiator
JRE の別バージョンの使用, 3-30
セキュリティ・メカニズム, 2-53
JRE、Solaris へのインストール, 2-22

L

Locator コンポーネント
HTTP サーバー以外のマシンでの実行方法, 3-28
Locator の実行が停止するとどうなるか, 3-29
NT サービスによる自動的な起動, 3-1
Solaris でのアクティブ化, 2-26
インストール場所, 2-4
概要, 1-4
サーバーの停止中に何が起こるか, 3-29
定義、用語集 -1

N

NT
Discoverer 3i に対するレジストリ設定, 3-14, A-2
Oracle Applications ユーザーのためのレジストリ
設定, 3-18
NT イベント・ログ、サービス・エラーの表示, 3-4

O

Object Activation Daemon, 3-4
ODBC、データベースへのアクセス, 1-7
ORA-12154 TNS エラー, 3-29
Oracle Applications
NT レジストリ設定, 3-18
URL で使用する引数, 3-10, A-2
Oracle Applications ユーザーのための NT レジストリ,
3-18
Oracle Applications ユーザーのための URL 引数と値,
3-10, A-2
Oracle Applications ユーザーのためのセキュリティ,
3-10

P

Preferences、エンド・ユーザー, 3-13
Preferences コンポーネント
Preferences の実行が停止するとどうなるか, 3-29
インストール場所, 2-4
概要, 1-5
実行可能ファイル, 2-42
定義、用語集 -1
編集, 2-47

S

Session コンポーネント

インストール場所, 2-4

概要, 1-4

実行可能ファイル, 2-42

定義, 用語集-2

Solaris

Discoverer アプレットのインストール, 2-23

HTTP サーバーのインストール, 2-21

identitydb.obj ファイル, 2-32

Java Runtime Environment のインストール, 2-22

Locator コンポーネントのアクティブ化, 2-26

VisiBroker のインストール, 2-23

セキュリティ・メカニズム, 2-32

Solaris での Locator コンポーネントのアクティブ化,
2-26

Solaris でのセキュリティ, 2-32

Solaris への Discoverer アプレットのインストール,
2-23

Solaris への JRE のインストール, 2-22

Solaris への VisiBroker のインストール, 2-23

SQL*Net

SQLNET.ora ファイル, 2-6

データベースへのアクセス, 1-7

T

tnsnames.ora ファイル, 2-6

編集, 2-46, 2-51

U

URL で使用する職責引数, 3-10, A-2

URL の引数と値, 3-9

V

VisiBroker

Discoverer サーバーによって使用される CORBA コ
ンポーネント, 1-3

Object Activation Daemon による登録済みコンポー
ネントの表示, 3-4

Solaris に必要な JRE, 2-22

Solaris へのインストール, 2-23

環境変数, 3-28

W

Web ブラウザ、サポートされているタイプ, 2-3

Windows NT

Discoverer 3i サービス, 3-1

Discoverer 3i に対するレジストリ設定, 3-14, A-2

Discoverer 3i へのエンド・ユーザーのアクセス,
2-52

HTTP サーバーのインストール, 2-7

Java セキュリティ, 2-53

NT イベント・ログによるサービス・エラーの表示,
3-4

Oracle Applications ユーザーのためのレジストリ
設定, 3-18

マスター・サーバーのインストール, 2-13

あ

アプリケーション・サーバー

概要, 1-5

定義, 用語集-2

アプレット、Java

Solaris へのインストール, 2-23

インストール場所, 2-4

概要, 1-3

い

インストール時に作成される実行可能ファイル, 2-42

インストール時に作成されるディレクトリ, 2-41

え

エラー

Locator が Preferences にバインドできない, 3-30

NT イベント・ログの表示, 3-4

ORA-12154 TNS, 3-29

警告アプレット・ウィンドウ, 3-30

ネットワーク, 3-29

エンド・ユーザー

Discoverer 3i へのアクセス方法, 1-3, 2-3, 2-51,
3-7, 3-9

Oracle Applications URL 引数, 3-10, A-2

Oracle Applications レジストリ設定, 3-18

作業環境の編集, 3-13

か

環境変数, 3-28

く

クライアント、エンド・ユーザーが Discoverer 3i にアクセスする方法, 1-3

け

警告アプレット・ウィンドウ・エラー, 3-30

こ

コンポーネント

Discoverer アプレット, 1-3

Discoverer サーバーの構成, 2-46

HTTP サーバー以外のマシンでの Locator の
実行方法, 3-28

Locator、インストール場所, 2-4

Locator、定義済み, 1-4

Locator と Preferences の実行が停止すると
どうなるか, 3-29

Preferences、インストール場所, 2-4

Preferences、定義済み, 1-5

Session、インストール場所, 2-4

Session、定義済み, 1-4

削除, 2-42

登録および登録解除, 3-21

表示, 3-4

コンポーネントの登録および登録解除, 3-21

さ

サーバー

HTTP、概要, 1-5

HTTP、サポートされているタイプ, 2-3

アプリケーション、概要, 1-5

マスター Discoverer、概要, 1-5

サーバー間の負荷均衡, 2-47

サーバーの削除, 3-26

サーバーの追加, 3-26

サービス・エラー、NT イベント・ログの表示, 3-4

し

システム要件

ソフトウェア, 2-3, A-2

ハードウェア, 2-1

そ

ソフトウェア、Discoverer サーバーのコンポーネント,
1-3

ソフトウェア要件, 2-3, A-2

て

データベース

SQL*Net または ODBC を使用してのアクセス, 1-7
tnsnames.ora ファイルの編集, 2-51

テキスト, 3-1

と

登録された Discoverer サーバー・コンポーネントの
表示, 3-4

ね

ネットワーク・エラー, 3-29

は

ハードウェア要件, 2-1

ふ

ブラウザ、サポートされているタイプ, 2-3

ま

マスター Discoverer サーバー

インストール時に作成されるディレクトリ, 2-41
概要, 1-5

よ

要件

システム・ソフトウェア, 2-3, A-2

ハードウェア, 2-1

よくある質問, 3-28

わ

ワークシート、定義済み, 1-1

ワークブック、定義済み, 1-1

